

**Unica Insights レポート・イ  
ンストールおよび構成ガイド**



# Contents

|                                                                       |          |
|-----------------------------------------------------------------------|----------|
| <b>Chapter 1. Unica Insights レポート・インストールおよび構成ガイド</b> .....            | <b>1</b> |
| 概要.....                                                               | 1        |
| Unica Insights レポートのインストールの計画.....                                    | 1        |
| 前提条件.....                                                             | 1        |
| Unica Deliver レポートの前提条件.....                                          | 3        |
| Unica Insights の配置.....                                               | 5        |
| Unica Insights レポートのインストールと構成.....                                    | 9        |
| Unica Insights レポート・コンポーネントのインストール.....                               | 11       |
| Unica Insights レポートのアップグレード.....                                      | 11       |
| バージョン 12.0.0.0 または 12.0.0.1 から 12.1.0 へのアップグレード.....                  | 11       |
| バージョン 12.1.0.0 から 12.1.0.1 へのアップグレード.....                             | 12       |
| バージョン 12.1.0.0 から 12.1.0.3 へのアップグレード.....                             | 13       |
| バージョン 12.1.0.3 からバージョン 12.1.0.4 へのアップグレード.....                        | 14       |
| ReportsSystem 役割を持つユーザーの構成.....                                       | 14       |
| JDBC データ・ソースの作成.....                                                  | 15       |
| レポート SQL ジェネレーターのテンプレートのロード.....                                      | 16       |
| データ・ソース別の SQL スクリプト.....                                              | 17       |
| Unica Campaign および Unica Deliver のレポート・テーブルの作成およびデータ設定.....           | 19       |
| Unica Insights ディレクトリー内の Campaign および Deliver レポート・フォルダーのコピー.....     | 20       |
| Unica Campaign および Unica Deliver 専用のビューまたは具体化されたビューの作成.....           | 21       |
| Unica Insights ディレクトリー内の Plan レポート・フォルダーのコピー.....                     | 22       |
| Unica Insights ディレクトリー内の Collaborate レポート・フォルダーのコピー.....              | 22       |
| Unica Interact 専用のビューまたは具体化されたビューの作成.....                             | 23       |
| Unica Insights ディレクトリー内の Interact レポート・フォルダーのコピー.....                 | 24       |
| レポート・テーブルの作成およびデータ設定.....                                             | 24       |
| データ同期のセットアップ.....                                                     | 25       |
| Unica Deliver の場合のみ: デルタ処理のためのストアード・プロシージャ.....                       | 25       |
| Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャ、ステー징表および索引の作成.....                  | 27       |
| Unica Insights ユーティリティを使用した Unica Insights レポート設計ファイルのデータ・ソースの更新..... | 28       |
| Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャをスケジュールして実行する方法.....                 | 31       |
| Oracle のストアード・プロシージャの構成例.....                                         | 34       |

|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| Microsoft™ SQL Server 用ストアード・プロシージャの構成例.....     | 37 |
| DB2 用ストアード・プロシージャの構成例.....                       | 38 |
| MariaDB 用ストアード・プロシージャの構成例.....                   | 40 |
| OneDB 用ストアード・プロシージャの構成例.....                     | 42 |
| HCL Unica 認証を使用するように Unica Insights を構成する方法..... | 46 |
| レポート・スキーマ.....                                   | 46 |
| レポート SQL ジェネレーター.....                            | 47 |
| レポート配置オプション.....                                 | 47 |
| Campaign レポートおよびレポート・スキーマ.....                   | 48 |
| Unica Deliver レポートおよびレポート・スキーマ.....              | 51 |
| Interact レポートおよびレポート・スキーマ.....                   | 51 |
| Interact イベント・パターン・レポート用のストアード・プロシージャ.....       | 52 |
| Unica Insights レポートの形式.....                      | 61 |
| Unica での新規カスタム・レポートの統合.....                      | 71 |
| 新規 Unica カスタム・レポートのローカライズ.....                   | 72 |
| Unica Insights レポートのカスタマイズ.....                  | 73 |
| 既存のすぐに変更できる Unica Insights レポートの変更.....          | 73 |
| Campaign のための既存の Unica Insights レポートのカスタマイズ..... | 74 |
| Interact のための既存の Unica Insights レポートのカスタマイズ..... | 85 |
| 既知の問題.....                                       | 88 |

# 第1章. Unica Insights レポート・インストールおよび構成ガイド

このガイドでは、Unica Insights レポートをインストールおよび構成する方法について説明します。

## 概要

HCL Unica レポートのインストールは、IBM Cognos® BI または Unica Insights レポートをインストールして、それを HCL Unica アプリケーション用に構成すると完了します。このガイドでは、HCL Unica で Unica Insights レポートを構成する方法について詳しく説明します。

IBM Cognos® BI レポートについては、「Cognos Reports のインストールおよび構成ガイド」を参照してください。

## Unica Insights レポートのインストールの計画

HCL Unica 製品向けに Unica Insights レポートをインストールするには、システムのセットアップおよび環境の構成を正しく行う必要があります。前提条件を注意深く確認してください。

### 前提条件

HCL Unica 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

### システム要件

サポートされるバージョンについては、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」を参照してください。

### ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる HCL Unica 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

### JVM 要件

スイートに含まれる HCL Unica アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) に配置する必要があります。HCL Unica 製品は、Web アプリケーション・サーバーが使用する JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、HCL Unica 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere® ドメインを作成する必要があります。Insights war は、Weblogic、WAS、Tomcat、JBoss のいずれかのアプリケーション・サーバーで配置するためのものです。

 **注:** UNIX 上の JBoss アプリケーション・サーバーで Unica Insights レポートを表示できない場合は、Insights.war の配置の前にすべての権限 (777) を Platform/Insights/Reports/Insights.war ファイルに設定してください。

## 知識要件

HCL Unica 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

## アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび HCL Unica コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限。
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合) など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、および実行権限。

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。UNIX の場合、以下の追加の権限が必要です。

- Unica Platform をインストールするユーザー・アカウントは、Unica Campaign ユーザーと同じグループのメンバーである必要があります。このユーザー・アカウントには、有効なホーム・ディレクトリーが必要であり、そのディレクトリーに対する書き込み権限が付与されていなければなりません。
- HCL 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxf-r-x`) が必要です。

HCL Unica 製品をインストールするシステムに `JAVA_HOME` 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。サポートされるバージョンについて詳しくは、「HCL Unica の推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」を参照してください。

`JAVA_HOME` 環境変数が正しくない JRE を指している場合、HCL Unica インストーラーを実行する前に、その `JAVA_HOME` 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、`JAVA_HOME` 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、`set JAVA_HOME=(空のままにする)` と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、`export JAVA_HOME=(空のままにする)` と入力して、Enter キーを押します。

HCL Unica インストーラーは、HCL Unica インストール環境の最上位ディレクトリーに JRE をインストールします。個々の HCL Unica アプリケーションのインストーラーは、JRE をインストールしません。その代わりに、HCL

Unica インストーラーによってインストールされた JRE の場所を指定します。すべてのインストールが完了した後に環境変数を再設定することができます。

サポートされる JRE について詳しくは、「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

## Unica Platform 要件

HCL Unica 製品をインストールまたはアップグレードする前に、Platform をインストールまたはアップグレードする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Platform を 1 回だけインストールまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Platform をインストールまたはアップグレードするように求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティを設定するには、その前に、Unica Platform が配置済みであり、稼働している必要があります。

## サポートされているロケール

現在、サポートされている言語は英語のみです。

## Unica Deliver レポートの前提条件

Unica Deliver レポートを使用する場合、レポートをインストールするためのシステム要件に加えて、特定の前提条件に準拠する必要があります。

パフォーマンスを向上させるには、一時テーブル・スペースとしてデータ・サイズの 40% が必要になります。データベース管理者と協力し、定期的にデータベースを微調整してください。最良の結果を得るため、別個の非共有ディスクにマウントされた別個のテーブル・スペースに、Unica Deliver システム・テーブルを保管することができます。

## DB2® の設定中

DB2® を使用する場合は、バージョン 9.7.8 以上を使用する必要があります。

**!** **重要:** Unica Deliver レポートの適用を開始する前に、以下の値を設定する必要があります。

```
db2set DB2_COMPATIBILITY_VECTOR=ORA
```

### 以下のサイズ例: DB2®

大部分のデータ設定がレポート・テーブル (UCC\_\*) に行われる、約 600 GB の DB2® Unica Campaign データベースの場合、以下の設定を使用できます。

- テーブル・スペース・ページ・サイズ: 16K
- 一時テーブル・スペース: 250 GB
- db2 update db cfg using auto\_reval DEFERRED\_FORCE;
- db2 update db cfg using declft\_rounding ROUND\_HALF\_UP;
- db2 update db config using LOGFILSIZ 102400;
- db2 update db config using logprimary 13;

- db2 update db config using LOGSECOND 25;
- db2stop force
- db2start

**!** **重要:** トランザクション・ログのサイズは、レポート処理に影響を与える場合があります。データベース管理者とともに、データベース環境要件、特にトランザクション・ログのサイズについて検討してください。

## Oracle 用の設定

Oracle を使用する場合、バージョン 11g 以上を使用する必要があります。データベース管理者とともに、環境要件を検討してください。

### Oracle のサイズ例

大部分のデータ設定がレポート・テーブル (UCC\_\*) に行われる、約 650 GB の Oracle Unica Campaign データベースの場合、以下の設定を使用できます。

- 一時テーブル・スペース: 250 GB
- REDO ログのサイズ: 2 GB
- REDO ログの数: 4

## Microsoft™ SQL Server の設定

Microsoft™ SQL を使用する場合は、SQL Server 2008 以上を使用する必要があります。データベース管理者とともに、環境要件を検討してください。

### Microsoft™ SQL Server のサイズ例

大部分のデータ設定がレポート・テーブル (UCC\_\*) に行われる、約 520 GB の Microsoft™ SQL Server データベースの場合、以下の設定を使用できます。

- 一時テーブル・スペース: 250 GB

## Internet Explorer 用の設定

Internet Explorer を使用する場合は、ブラウザーのセキュリティ設定で、ファイルのダウンロードの自動プロンプトが許可されていることを確認してください。以下のステップを実行して、ブラウザーでファイルのダウンロードの自動プロンプトが許可されていることを確認します。

1. Internet Explorer を開いて、「ツール」 > 「インターネット オプション」に移動します。
2. 「セキュリティ」タブで、「レベルのカスタマイズ」をクリックします。
3. 「ダウンロード」セクションまでスクロールダウンします。
4. 「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」オプションが「有効にする」に設定されていることを確認します。

## Unica Insights の配置

Web アプリケーション・サーバーに Unica Insights を配置する際には、一連のガイドラインに従う必要があります。Unica Insights を WebLogic および WebSphere に配置することを目的とした、別個のガイドラインがあります。

Unica インストーラーを実行する場合は、以下のアクションを完了しておきます。

- Unica Insights の WAR ファイル (Insights.war) を作成する。

ここでは、Web アプリケーション・サーバーの操作方法を知っていることを前提としています。管理コンソールでのナビゲーションなどについて詳しくは、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

### NOTE

Unica Insights レポートで、ロード・バランサー、リバース・プロキシ、または Web アクセス管理ソフトウェアを使用して Unica にアクセスする場合は、以下の手順を実行して、viewer.properties ファイルにリバース・プロキシ URL を構成します。

- Insights.war を開きます。
- WEB-INF フォルダに移動し、viewer.properties ファイルにアクセスします。
- 「#」を削除して、base\_url プロパティのコメントを解除します。
- Unica Insights のリバース・プロキシ URL で base\_url プロパティを構成します。
- Insights.war ファイルを再配置します。

## WebLogic 上に Unica Insights を配置する際のガイドライン

WebLogic アプリケーションに Unica Insights を配置する際には、一連のガイドラインに従う必要があります。

サポートされるバージョンの WebLogic に Unica Insights 製品を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

- Unica 製品は、WebLogic が使用する Java 仮想マシン (JVM) をカスタマイズします。JVM 関連のエラーが発生した場合、Unica 製品に専用の WebLogic インスタンスを作成できます。
- startWebLogic.cmd ファイルを開いて、使用している WebLogic ドメイン用に選択した SDK が、JAVA\_VENDOR 変数の Sun SDK であることを確認します。JAVA\_VENDOR 変数を Sun (JAVA\_VENDOR=Sun) に設定する必要があります。

JAVA\_VENDOR 変数を JAVA\_VENDOR に設定することは、JRockit が選択されていることを意味します。JRockit はサポートされていないため、選択する SDK を変更する必要があります。選択する SDK の変更方法については、BEA WebLogic の資料を参照してください。

- Web アプリケーションとして Unica Insights を配置します。
- IIS プラグインを使用するよう WebLogic を構成する場合は、BEA WebLogic の資料を確認してください。
- インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下のタスクを実行してください。
  1. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下にある bin ディレクトリーにある setDomainEnv スクリプトを編集して、JAVA\_VENDOR に -Dfile.encoding=UTF-8 を追加します。
  2. **WebLogic** コンソールで、ホーム・ページの「ドメイン」リンクをクリックします。

3. 「Web アプリケーション」タブで、「実際のパスのアーカイブを有効にする」チェック・ボックスを選択します。
  4. WebLogic を再始動します。
  5. Insights.war ファイルを配置して開始します。
- 実稼働環境に配置している場合は、setDomainEnv スクリプトに以下の行を追加して、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定します。

```
Set MEM_ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m
```

## WebSphere 上に Unica Insights を配置する際のガイドライン

WebSphere に Unica Insights を配置する際には、一連のガイドラインに従う必要があります。WebSphere のバージョンが、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」の資料に記載されている要件 (必要なフィックス・パックを含む) を満たしていることを確認します。Unica Insights を WebSphere に配置する際には、以下のガイドラインを使用してください。

1. サーバーで以下のカスタム・プロパティを指定します。
  - 名前: com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility
  - 値: true
2. WebSphere にカスタム・プロパティを設定します。
3. Insights.war ファイルをエンタープライズ・アプリケーションとして配置します。Insights.war ファイルを配置する際には、JSP コンパイラーの JDK ソース・レベルが SDK 1.7 の場合は Java 17、SDK 1.8 の場合は Java 18 にそれぞれ設定されていることと、JSP ページが以下の情報に従ってプリコンパイルされていることを確認します。
  - WAR ファイルの参照と選択を行うフォームで、「すべてのインストール・オプションとパラメーターを表示」を選択して「インストール・オプションの選択」ウィザードを実行します。
  - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 1 で、「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」を選択します。
  - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 3 で、「JDK ソース・レベル」が SDK 1.7 の場合は 17、SDK 1.8 の場合は 18 にそれぞれ設定されていることを確認します。
  - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 8 で、一致するターゲット・リソースとして「UnicaPlatformDS」を選択します。
  - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 10 で、コンテキスト・ルートを / Insights に設定する必要があります。
4. サーバーの「Web コンテナ設定」>「Web コンテナ」>「セッション管理」セクションで、Cookie を有効にします。配置するアプリケーションごとに、異なるセッション Cookie 名を指定します。以下のいずれかの手順を使用して、Cookie 名を指定します。
  - 「セッション管理」の下にある「セッション管理のオーバーライド」チェック・ボックスを選択します。製品用の別個の WAR ファイルを配置する場合、WebSphere コンソールを使用して、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」>[配置するアプリケーション]>「セッション管理」>「Cookie を使用可能にする」>「Cookie 名」セクションで、固有のセッション Cookie 名を指定します。

- インストール環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下の引数を、サーバー・レベルで「汎用 JVM 引数」に追加します。

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

```
-Dclient.encoding.override=UTF-8
```

5. ナビゲーションのヒント: 「サーバー」 > 「アプリケーション・サーバー」 > 「Java およびプロセス管理」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」 > 「汎用 JVM 引数」を選択します。詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。
6. サーバーの「アプリケーション」 > 「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した WAR ファイルを選択してから、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択して、以下のプロパティを指定します。WAR ファイルを配置する場合:
  - 「クラス・ローダー順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
  - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの単一クラス・ローダー」を選択します。
7. 配置を開始します。WebSphere のインスタンスが JVM バージョン 1.7 以降を使用するように構成されている場合、タイム・ゾーン・データベースの問題を回避するために、以下のステップを実行します。
  - WebSphere を停止します。
  - Time Zone Update Utility for Java (JTZU) をダウンロードします。
  - IBM (JTZU) で示される手順に従って、JVM 内のタイム・ゾーン・データを更新します。
  - WebSphere を再始動します。
8. WebSphere エンタープライズ・アプリケーションで、「アプリケーション」 > 「モジュールの管理」 > 「アプリケーション」 > 「クラス・ローダー順序」 > 「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
  - アプリケーションの基本機能の推奨される最小ヒープ・サイズは 512 であり、推奨される最大ヒープ・サイズは 1024 です。以下のタスクを実行して、ヒープ・サイズを指定します。
    - WebSphere エンタープライズ・アプリケーションで、「サーバー」 > 「WebSphere Application Servers」 > 「server1」 > 「サーバー・インフラストラクチャー」 > 「Java およびプロセス管理」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」を選択します。
    - 初期ヒープ・サイズを 512 に設定します。
    - 最大ヒープ・サイズを 1024 に設定します。サイズ設定について詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。DB2 の場合、次のパスで WebSphere コンソールに `progressiveStreaming=2` を設定します: 「JDBC」 > 「データ・ソース」 > 「UnicaPlatformDS」 > 「カスタム・プロパティ」。

## JBoss 上に Unica Insights を配置する際のガイドライン

Insights.war を JBoss アプリケーション・サーバーに配置する前に、Insights.war ファイルを更新します。

JBoss に Unica Insights を配置するには、一連のガイドラインに従う必要があります。JBoss のバージョンが、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」の資料に記載されている要件を満たしていることを確認します。JBoss に Unica Insights を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

 **注:** UNIX 上の JBoss アプリケーション・サーバーで Unica Insights レポートを表示できない場合は、Insights.war の配置の前にすべての権限 (777) を Platform/Insights/Reports/Insights.war ファイルに設定してください。

サポートされるバージョンの JBoss に Unica Insights 製品を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

1. Insights.war ファイルをエンタープライズ・アプリケーションとして配置します。例:<Platform\_Install>\ Insights.war を配置します。  
JBoss で Web サーバー・アプリケーションを配置する手順については、<https://docs.jboss.org/jbossweb/3.0.x/deployer-howto.html> を参照してください。
2. インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下のタスクを実行してください。
  - JBoss /bin ディレクトリーの下に bin ディレクトリーにある standalone.conf スクリプトを編集して、  
Dfile.encoding=UTF-8.  
-Dclient.encoding.override=UTF-8  
-Djboss.as.management.blocking.timeout=3600  
を JAVA\_VENDOR に追加します。
  - JBoss サーバーを再始動します。

## Apache Tomcat 上に Unica Insights を配置する際のガイドライン

Apache Tomcat に Unica Insights を配置する際には、一連のガイドラインに従う必要があります。

Apache Tomcat のバージョンが、「HCL Enterprise 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」の資料に記載されている要件を満たしていることを確認します。Apache Tomcat に Unica Insights を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

1. Insights.war ファイルを Tomcat Apache サーバー上にエンタープライズ・アプリケーションとして配置します。
2. インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下のタスクを実行してください。
  - tomcat インスタンス・ディレクトリーの下に bin ディレクトリー内のそれぞれの製品インスタンス・スクリプトに応じた setenv.sh ファイルを編集して、次の追加を行います: -Dfile.encoding=UTF-8 -Dclient.encoding.override=UTF-8 to JAVA\_VENDOR.
  - tomcat インスタンス・ディレクトリーの下に bin ディレクトリー内のそれぞれの製品インスタンス・スクリプトに応じた setenv.sh ファイルを編集して、次の追加を行います: -Dfile.encoding=UTF-8 -Dclient.encoding.override=UTF-8 to JAVA\_VENDOR.
  - tomcat インスタンス・ディレクトリーの下に bin ディレクトリー内のそれぞれの製品インスタンス・スクリプトに応じた setenv.sh ファイルを編集して、次の追加を行います: -Dfile.encoding=UTF-8 -Dclient.encoding.override=UTF-8 to JAVA\_VENDOR.

- tomcat インスタンス・ディレクトリーの下の bin ディレクトリー内のそれぞれの製品インスタンス・スクリプトに応じた setenv.sh ファイルを編集して、次の追加を行います: `-Dfile.encoding=UTF-8-Dclient.encoding.override=UTF-8 to JAVA_VENDOR`.
  - Tomcat を再始動します。
3. 実稼働環境に配置している場合は、その tomcat インスタンスの JVM ヒープ設定を、すべてのインスタンスに対してそれぞれの app-one/bin/setenv.sh ファイルに追加できます

## Unica Insights レポートのインストールと構成

Unica Platform アプリケーションを使用すると、Unica Insights レポートをインストールできます。詳しくは、「Unica Platform インストール・ガイド」を参照してください。

インストーラーによって設定された構成プロパティを以下に示します。

### Insights | ナビゲーション

Unica スイートが Unica Insights と連携してレポートを生成します。

このページには、Unica Insights システムで使用される URL などのパラメーターを指定するプロパティが表示されます。

#### Seed Name

##### 説明

HCL Unica アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

##### デフォルト値

Insights

#### httpPort

##### 説明

このプロパティは、Unica Insights Web アプリケーション・サーバーが使用するポートを指定します。Unica Insights のインストールでデフォルト以外のポートを使用する場合、このプロパティの値を編集する必要があります。

##### デフォルト値

7001

#### httpsPort

##### 説明

SSL が構成されている場合、このプロパティは、Unica Insights Web アプリケーション・サーバーがセキュア接続のために使用するポートを指定します。Unica Insights のインストールでデフォルト以外のセキュア・ポートを使用する場合、このプロパティの値を編集する必要があります。

#### デフォルト値

7001

#### serverURL

##### 説明

Unica Insights Web アプリケーションの URL を指定します。「ドメイン」プロパティで指定したドメイン・ネーム (および該当する場合にはサブドメイン) を含めた完全修飾ホスト名を使用します。例: `http://MyReportServer.MyCompanyDomain.com:7001/ Insights`

##### デフォルト値

`http://[CHANGE ME]/Insights`

##### 有効な値

適切な形式の URL。

#### logoutURL

##### 説明

logoutURL プロパティは、ユーザーがログアウト・リンクをクリックした場合に、登録されているアプリケーションのログアウト・ハンドラーを呼び出すために内部的に使用されます。この値を変更しないでください。

##### デフォルト値

`/j_spring_security_logout`

#### 有効

##### 説明

Unica Insights がレポート・エンジンとして使用されるように、この値を `TRUE` に設定します。

 **注:** バージョン 12.1 にアップグレードする際に、Campaign/Plan/Interact レポート・パックと Unica Platform が既にインストールされている場合は、Cognos Reports または Unica Insights レポートのいずれかを表示できます。

##### デフォルト値

False

##### 有効な値

FALSE | TRUE

以下の表は、各製品の Unica Insights レポートでサポートされるデータベースを示しています。

| 製品                | データベース                              |
|-------------------|-------------------------------------|
| Unica Campaign    | Oracle、SQL Server、DB2、MariaDB、OneDB |
| Unica Interact    | Oracle、SQL Server、DB2、MariaDB、OneDB |
| Unica Plan        | Oracle、SQL Server、DB2、MariaDB       |
| Unica Deliver     | Oracle、SQL Server、DB2、MariaDB、OneDB |
| Unica Collaborate | Oracle、SQL Server、DB2               |

 **注:** Unica Collaborate レポートは、バージョン 12.1.0.3 以降でサポートされています。

 **注:**

- Interact の場合、バージョン 12.1.0.3 以降では、MariaDB と OneDB がサポートされています。
- Plan の場合、バージョン 12.1.0.3 以降では、MariaDB がサポートされています。
- Campaign の場合、バージョン 12.1.0.3 以降では、OneDB がサポートされています。
- Deliver の場合、バージョン 12.1.0.3 以降では、MariaDB と OneDB がサポートされています。

## Unica Insights レポート・コンポーネントのインストール

HCL Unica 製品用の Unica Insights レポートをインストールするには、Unica Insights レポート・コンポーネントをインストールする必要があります。

レポート・コンポーネントには、以下のアイテムが含まれています。

- HCL Unica 統合コンポーネント
- レポート・スキーマ

## Unica Insights レポートのアップグレード

Unica Platform アプリケーションを使用すると、Unica Insights レポートをアップグレードできます。詳しくは、「Unica Platform アップグレード・ガイド」を参照してください。

バージョン 12.0.0.0 または 12.0.0.1 から 12.1.0 へのアップグレード

バージョン 12.1.0 では、BIRT レポートのノードが Unica Insights に置き換えられます。アップグレードの完了後に構成プロパティを検証する必要があります。アップグレードを実行するには、以下の手順を実行します。

- 12.0.x バージョンから 12.1.0 バージョンにアップグレードするには、以下のサブステップを実行します。
  - hcl-birt.war の配置を解除します。
  - hcl-birt.war をアプリケーション・サーバー・ディレクトリーから削除します。
- UnicaInsights.war を <PLATFORM\_HOME>/Insights/Insights.war からアプリケーション・サーバー・ディレクトリーにコピーします。
- UnicaInsights.war を配置します。
- Platform システム・データベースで templates\_sql\_load.sql を実行します。
- アプリケーションにログインし、「構成」>「レポート SQL ジェネレーター」>「Deliver レポートの選択」に移動します。
- Unica Insights ディレクトリーでアップグレードを実行するそれぞれの製品レポート・フォルダーをコピーします。以下のトピックで説明されている手順を実行します。
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Campaign および Deliver レポート・フォルダーのコピー\(20 ページ\)](#)
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Plan レポート・フォルダーのコピー\(22 ページ\)](#)。
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Interact レポート・フォルダーのコピー\(24 ページ\)](#)。
- Deliver レポートのアップグレードを実行するには、「[Unica Deliver の場合のみ: デルタ処理のためのストアド・プロシージャ\(25 ページ\)](#)」セクションで説明されている手順を実行します。

## バージョン 12.1.0.0 から 12.1.0.1 へのアップグレード

Deliver レポートは、バージョン 12.1.0 の基本環境で使用する必要があります。「Unica\_home\Platform\Insights\Reports」のすべてのレポート・フォルダーのバックアップを作成する必要があります。Campaign データベースと Platform データベースのバックアップも作成する必要があります。

 **注:** Unica Insights は、4 文字のロケールをサポートしています。例えば、Unica\_home\Campaign\reports\tools ディレクトリーに、フランス語ロケール用の検索データ設定 SQL ファイルが 2 つある場合は、以下のようになります。

- uare\_lookup\_populate\_fr.sql
- uare\_lookup\_populate\_fr\_FR.sql

uare\_lookup\_populate\_fr\_FR.sql を実行し、他のファイルは無視する必要があります。

Unica Insights レポートのバージョン 12.1.0.0 からバージョン 12.1.0.1 へのアップグレードを実行するには、以下の手順を実行します。

- 「[Unica Insights ディレクトリー内の Campaign および Deliver レポート・フォルダーのコピー\(20 ページ\)](#)」セクションで説明しているように、レポート設計ファイルを Unica\_home\Campaign\reports から Unica\_home\Platform\Insights\Reports にコピーして置き換えます。
- Campaign システム・データベースで Unica\_home\Campaign\reports\Deliver-dd\<DBType>\acer\_scripts\_<DBType>.sql および <DBType>\upgrade\upgrade121to12101.sql を実行します。

3. Platform データベースで `Unica_home\Campaign\reports\schema\templates_sql_load.sql` を実行します。
4. アプリケーションにログインし、「構成」>「レポート SQL ジェネレーター」>「Deliver レポートの選択」に移動します。
5. データベース・タイプを選択し、ビュー・スクリプト `Deliver.sql` をダウンロードします。
6. Campaign データベースで `Deliver.sql` を実行します。
7. 以下の SMS プロシージャ用にデータベース・ジョブを構成します。
  - `SP_POPULATE_SMS_CONTACTS`
  - `SP_POPULATE_SMS_RESPONSES`

## バージョン 12.1.0.0 から 12.1.0.3 へのアップグレード

バージョン 12.1.0.0 からバージョン 12.1.0.3 にアップグレードするには、以下の手順を実行します。

1. 環境が稼働していることを確認します。
2. `Insights.war` および `Campaign.war` のバックアップを作成します。
3. 既存の配置ディレクトリーのバックアップを作成します。
4. `Insights.war` を配置ディレクトリー・パスにコピーします。
5. 新しい `Insights.war` ファイルを再配置し、新しいアプリケーション・サーバーを始動します。
6. `Insights` 配置ディレクトリー `<Unica_Home>\Platform\Insights\Reports\translated\` の `web.xml` で `BIRT_RESOURCE_PATH` を確認します。
7. 以下のプロパティ・ファイルを `BIRT_RESOURCE_PATH` にコピーします。
  - `Campaign_Home/reports/translated/Campaign/*.properties`
  - `Campaign_Home/reports/translated/Deliver/*.properties`
8. `InsightsDBUtil` を実行して、Campaign 製品および Deliver 製品のデータ・ソースをアップグレードします。
9. Platform データベースで `Unica_home\Campaign\reports\schema\templates_sql_load.sql` を実行します。
10. アプリケーションにログインし、以下の場所に移動します。
  - Campaign および Collaborate の場合: 「構成」>「レポート SQL ジェネレーター」>「Campaign レポートの選択」
  - Deliver の場合: 「構成」>「レポート SQL ジェネレーター」>「Deliver レポートの選択」
  - Interact の場合: 「構成」>「レポート SQL ジェネレーター」>「Interact レポートの選択」
11. Campaign、Deliver、Interact、Collaborate、および Plan の rpt 設計ファイルを `Platform/Reports/Insights/` にコピーして置き換えます。構成の詳細について詳しくは、以下のセクションを参照してください。
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Campaign および Deliver レポート・フォルダーのコピー\(20 ページ\)](#)
  - [Unica Campaign および Unica Deliver のレポート・テーブルの作成およびデータ設定\(19 ページ\)](#)
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Interact レポート・フォルダーのコピー\(24 ページ\)](#)
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Plan レポート・フォルダーのコピー\(22 ページ\)](#)
  - [Unica Insights ディレクトリー内の Collaborate レポート・フォルダーのコピー\(22 ページ\)](#)
12. Campaign レポートの場合、`Unica_home\Campaign\reports\ddl<DB Type>` ディレクトリーに移動し、Campaign システム・データベースで `sp_whatifofferperf.sql` を実行します。

 **注:** MariaDB はサポートされていません。DB タイプは Oracle/SQLServer/DB2/OneDB のいずれかです。

13. アプリケーション・サーバーを開始します。

## バージョン 12.1.0.3 からバージョン 12.1.0.4 へのアップグレード

Unica Insights をバージョン 12.1.0.4 にアップグレードするには、Unica Insights バージョン 12.1.0.3 がインストールされている必要があります。

Unica Insights バージョン 12.1.0.4 にアップグレードするには、以下の手順を実行します。

1. Unica Campaign システム・データベースをアップグレードするには、以下の手順を実行します。
  - a. 場所 Campaign\_Home\reports\Deliver-ddl\\upgrade にアクセスし、upgrade12103to12104.sql コマンドを実行します。
  - b. 場所 Campaign\_Home\reports\Deliver-ddl\
2. インストール・ディレクトリー内のレポート・ファイルを最新の表示にするには、以下の手順を実行します。
  - a. 場所 Unica\_home\Campaign\reports\Affinium Campaign\Deliver Reports で、既存の Deliver レポート設計ファイルをバックアップします。
  - b. レポート設計ファイルを場所 Unica\_home\Platform\Insights\Reports\campaign\partitions\partition1\Affinium Campaign\Deliver Reports に移動します。
3. レポート設計ファイル内のデータ・ソースを更新します。詳しくは、[Unica Insights ユーティリティを使用した Unica Insights レポート設計ファイルのデータ・ソースの更新\(28 ページ\)](#) を参照してください。
4. WhatsApp コンタクトのデータベース・ジョブをセットアップし、WhatsApp およびモバイル・レポートのレスポンスをセットアップします。詳しくは、[Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャーをスケジューリングして実行する方法\(31 ページ\)](#) を参照してください。  
プロシージャー名は以下のとおりです。
  - sp\_populate\_mobile\_Responses
  - sp\_populate\_WhtsApp\_Contacts
  - sp\_populate\_WhtsApp\_Responses
5. Unica Deliver 変換ファイルを場所 <Unica\_Home>\Campaign\reports\translated\Deliver\*.properties からコピーして、場所 <Unica\_Home>\Platform\Insights\Reports\translated に貼り付けます。
6. Unica Campaign データベースで、uare\_lookup\_population スクリプト・データを最新の表示にします。場所 Unica\_Home\Campaign\reports\tools\ に移動し、すべての言語の uare\_lookup\_populate\*.sql スクリプトを実行します。

## ReportsSystem 役割を持つユーザーの構成

ReportsSystem 役割を持つユーザーを構成する必要があります。この役割は、レポート・プロパティを構成する場合、およびレポート・スキーマの作成に使用される SQL スクリプトを生成する場合に使用されます。

ReportsSystem 役割を持つユーザーは、「構成」ページおよび「レポート SQL ジェネレーター」ページにアクセスできます。HCL Unica の「設定」>「構成」ページ、および「設定」>「レポート SQL ジェネレーター」ページに対するアクセス権限を持つユーザーを構成する必要があります。こうすることで、このユーザーとしてログインして、レポート・プロパティを構成したり、レポート・スキーマの作成に使用される SQL スクリプトを生成したりすることができるようになります。

ReportsSystem 役割を持つユーザーを構成するには、以下の手順を実行します。

1. ユーザーを作成します。

 **注:** platform\_admin ユーザーを使用することもできます。

2. 「ユーザーの役割と権限」>「レポート」>「PartitionN」に移動して、そのユーザーに ReportsSystem 役割を割り当てます。
3. ユーザーが「設定」>「構成」ページおよび「設定」>「レポート SQL ジェネレーター」ページに対するアクセス権限を保持していることを確認します。
4. ReportsSystem 役割 (Unica Platform Report) および ReportsUser 役割 (Unica Platform Report) をユーザーに付与します。

## JDBC データ・ソースの作成

レポートを使用可能にする HCL Unica アプリケーションごとに、JDBC データ・ソースを構成する必要があります。

HCL Unica レポート SQL ジェネレーター・ツールは、レポート・テーブルを作成する SQL スクリプトを生成するために、HCL Unica アプリケーション・データベースに接続できなければなりません。レポート SQL ジェネレーターは、アプリケーション・データベースにアクセスすることなくビューや具体化されたビューを作成する SQL スクリプトを生成することができます。

しかし、SQL ジェネレーターはデータ・ソース接続をせずに SQL コードを検証することはできません。

このタスクに関してさらにヘルプが必要な場合は、製品インストールの資料を参照してください。JDBC データ・ソースを作成するには、以下のステップを実行します。

JDBC データ・ソースを構成するときは、次の表にリストされているデフォルトの JNDI 名を使用してください。

 **注:** デフォルトの JNDI 名を使用しない場合は、使用する名前を書き留めておいてください。SQL ジェネレーター・ツールを実行するときには、データ・ソースの正しい名前を指定する必要があります。

表 1. デフォルトの JNDI 名

| アプリケーション                         | デフォルトの JNDI 名                                                          |
|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| Unica Campaign および Unica Deliver | campaignPartition1DS<br><br>パーティションが複数存在する場合は、パーティションごとにデータ・ソースを作成します。 |

表 1. デフォルトの JNDI 名 (続く)

| アプリケーション          | デフォルトの JNDI 名                    |
|-------------------|----------------------------------|
| Unica Interact    | 設計時データベース用: campaignPartition1DS |
|                   | ランタイム・データベース用: InteractRTDS      |
|                   | 学習テーブル用: InteractLearningDS      |
| Unica Collaborate | campaignPartition1DS             |

## レポート SQL ジェネレーターのテンプレートのロード

HCL Unica Insights レポートでは、SQL スクリプトが含まれているレポート・スキーマを使用します。これらの SQL スクリプトは、テンプレート SQL select ステートメントを `uar_common_sql` テーブルにロードします。レポート SQL ジェネレーターは、レポート・ビューまたはレポート・テーブルを作成する SQL スクリプトを生成する際に、これらのテンプレートを使用します。

テンプレートをロードするスクリプトを実行するには、以下のステップを実行します。

1. レポート・パック・インストール済み環境の下の `schema` ディレクトリーを参照し、`templates_sql_load.sql` スクリプトを見つけます。
2. この `templates_sql_load.sql` スクリプトを Platform データベースで実行します。

## ビューの作成スクリプトの生成

レポートを生成するときは、レポート・ビューまたはレポート・テーブルからレポート可能データを抽出します。ビューの作成スクリプトを使用して、レポート・ビューを作成できます。レポート SQL ジェネレーターを使用して、ビューの作成スクリプトを作成します。

ビューの作成スクリプトを作成するには、以下の手順を実行します。

1. ReportsSystem 役割を持つユーザーとして HCL Unica にログインします。
2. JDBC データ・ソースのデフォルトの JNDI 名を作成した場合は、ステップ 3 に進みます。JDBC データ・ソースのデフォルトの JNDI 名を作成しなかった場合は、以下のサブステップを実行します。
  - a. 「設定」 > 「構成」 > 「レポート」 > 「スキーマ」 > 「製品名」を選択します。
  - b. JNDI プロパティーのデフォルト値を、JDBC 接続で使用した JNDI 名に一致するように変更します。
3. 「設定」 > 「レポート SQL ジェネレーター」を選択します。

 **注:** JNDI データ・ソース名が正しくないか、構成されていない場合、SQL ジェネレーターはテーブルを作成する SQL スクリプトを検証できません。

4. 「製品」フィールドで、適切な HCL Unica アプリケーションを選択します。
5. 「スキーマ」フィールドで 1 つ以上のレポート・スキーマを選択します。
6. 「データベース・タイプ」を選択します。

 **注:** 「データベース・タイプ」ドロップダウン・リストには、Oracle SQLSever、DB2、OneDB、および MariaDB が表示されます。MariaDB と OneDB は Collaborate レポートではサポートされず、OneDB は

Plan レポートではサポートされません。製品ごとにサポートされているデータベースについては、「[Unica Insights レポートのインストールと構成\(9 ページ\)](#)」を参照してください。

7. 「**生成タイプ**」リストで、データベース・タイプに合ったオプションを選択します。表および XML オプションは推奨されません。

| データベース                        | 許可されるオプション    |
|-------------------------------|---------------|
| SQL Server                    | ビュー           |
| Oracle                        | ビュー、具体化されたビュー |
| IBM DB2                       | ビュー、具体化されたビュー |
| MariaDB                       | ビュー           |
| OneDB                         | ビュー           |
| これは、バージョン 12.1.0.3 以降で使用できます。 |               |

Oracle および IBM® DB2® の場合、具体化されたビューを使用することをお勧めします。管理者は、要件に従って夜間または毎時に更新するように、それらをスケジュールする必要があります。

8. 「**Drop 文を生成しますか?**」を「いいえ」に設定しておきます。
9. 生成された SQL スクリプトを調べるには、「**生成**」をクリックします。SQL ジェネレーターでスクリプトが作成され、ブラウザ・ウィンドウにそのスクリプトが表示されます。
10. 「ダウンロード」をクリックします。

SQL ジェネレーターによってスクリプトが作成され、ファイルを保存する場所を尋ねるプロンプトが出されます。単一のレポート・スキーマを選択した場合、スクリプト名はスキーマの名前と一致します (例えば、Deliver\_Mailing\_Performance.sql)。複数のレポート・スキーマを選択すると、スクリプト名には製品名 (例: Campaign.sql) が使用されます。

#### 注:

SQL20059W マテリアライズ照会表 table-name は、照会の処理を最適化するために使用できません。

この場合でも、具体化されたビューは正常に作成されます。

11. スクリプトを保存する場所を指定して、「**保存**」をクリックします。ファイルの名前を変更する場合は、必ず選択したスキーマを明確に示す名前を使用してください。
12. 生成する各スクリプトについて、ステップ 5 から 12 までを繰り返します。

 注: Interact レポート・スキーマは、複数のデータ・ソースを参照します。データ・ソースごとに別の SQL スクリプトを生成してください。

## データ・ソース別の SQL スクリプト

各データ・ソース用にビューまたは具体化されたビューを作成するには、別個の SQL スクリプトを使用します。

以下の表は、各データ・ソース用に生成する必要があるスクリプト、結果として生成されるスクリプト名、およびビューまたは具体化されたビューを作成するために HCL Unica アプリケーション・データベースに対して実行する必要があるスクリプトに関する情報を示しています。

 **注:**

- この表には、データ・ソースと生成されるスクリプトのデフォルト名をリストしています。実際の名前は異なる可能性があります。
- 製品レポート・スキーマは、複数のデータ・ソースを参照します。データ・ソースごとに別の SQL スクリプトを生成してください。

インストーラーが配置したレポート設計ファイルには、データベース接続トークンがあります。それらをシステム・データベース用に更新する必要があります。同じ更新を行うには、`insightsdbutil.sh/bat` ユーティリティを実行する必要があります。レポートにデータ・ソース構成が1つ以上存在する場合があります。以下の表を参照してください。

| レポート                                                                                                                                                           | 構成                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| キャンペーン分析レポート                                                                                                                                                   | CampaignDS                                 |
| Interact レポート                                                                                                                                                  | 対話 DTDS<br>対話 ETLDS<br>対話式学習 DS<br>対話 RTDS |
| Plan レポート                                                                                                                                                      | PlanDS                                     |
| Deliver レポート                                                                                                                                                   | DeliverDS                                  |
| Collaborate レポート<br> <b>注:</b> Collaborate レポートは、バージョン 12.1.0.3 以降から使用できます。 | CampaignDS<br>CollaborateDS<br>CustomerDS  |

以下の表は、各データ・ソース用に生成する必要があるスクリプト、結果として生成されるスクリプト名、およびビューまたは具体化されたビューを作成するために Unica アプリケーション・データベースに対して実行する必要があるスクリプトに関する情報を示しています。

 **注:** この表には、データ・ソースと生成されるスクリプトのデフォルト名をリストしています。実際の名前は異なる可能性があります。

Unica Interact レポート・スキーマは、複数のデータ・ソースを参照します。データ・ソースごとに別の SQL スクリプトを生成してください。

| レポート・スキーマ                                                         | データ・ソースおよびデフォルト名                                                             | デフォルト・スクリプト名                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| すべての Unica Campaign レポート・スキーマ                                     | Unica Campaign システム・テーブル<br>campaignPartition1DS                             | Campaign.sql (レポート・スキーマごとに別のスクリプトを生成していない場合)。別のスクリプトを生成している場合、各スクリプトの名前は個々のスキーマに基づいて付けられます。 |
| Unica Deliver メール配信パフォーマンス                                        | Unica Deliver は、Unica Campaign システム・テーブルに関する表を追跡します。<br>campaignPartition1DS | Deliver_Mailing_Performance.sql                                                             |
| Unica Interact 配置履歴、Unica Interact パフォーマンス、および Unica Interact ビュー | Unica Interact 設計時間データベース<br>campaignPartition1DS                            | Interact.sql                                                                                |
| Unica Interact 学習                                                 | Unica Interact 学習テーブル<br>InteractLearningDS                                  | Interact_Learning.sql                                                                       |
| Unica Interact ランタイム                                              | Unica Interact ランタイム・データベース<br>InteractRTDS                                  | Interact_Runtime.sql                                                                        |

## Unica Campaign および Unica Deliver のレポート・テーブルの作成およびデータ設定

SQL スクリプトを使用して、Unica Campaign 用のレポート・テーブルを作成し、データを設定することができます。レポート・アプリケーションは、レポート・テーブルを使用して、レポート可能データを抽出します。

Unica Campaign および Unica Deliver 用のレポート・テーブルを作成してデータを設定するには、以下の手順を実行します。

1. Campaign システム・データベースに接続します。
2. 前に生成して保存してある SQL スクリプトを見つけます。
3. データベース管理ツールを使用して、構成するレポート・パッケージに該当するアプリケーション・データベースに対して適切なスクリプトを実行します。

4. Campaign で DB2 データベースを使用する場合は、DB2 ヒープ・サイズを 10240 以上に増やします。デフォルトのヒープ・サイズは 2048 です。
5. 次のコマンドを使用して、ヒープ・サイズを増やします。

```
db2 update db cfg for
databasename using stmtheap 10240
```

databasename は、Campaign データベースの名前です。

6. データベース管理ツールを使用して、新規テーブルに実稼働システム・データベースからの適切なデータを設定します。
7. 以下のサブステップを実行します。このステップは、MariaDB データ・ソースには必要ありません。
  - a. <CAMPAIGN\_HOME>/reports/ddl/<DBtype> インストール・ディレクトリーに移動します。
  - b. sp\_whatifofferperf.sql を見つけて実行します。

 **注:** パーティションが複数ある場合は、Campaign データベースのパーティションごとにスクリプトを実行する必要があります。

- c. DB2 の場合は、以下のコマンドを使用して DB2\_COMPATIBILITY\_VECTOR を設定します。db2 サーバー・ポスト・パラメーター・セットをいったん停止してから開始する必要があります。

```
db2set
DB2_COMPATIBILITY_VECTOR=ORA
```

[データ同期のセットアップ\(25 ページ\)](#) を続行してください。

。

## Unica Insights ディレクトリー内の Campaign および Deliver レポート・フォルダーのコピー

Campaign インストーラーは、レポート設計フォルダーまたはファイルを Campaign インストール・ディレクトリーに配置します。

以下の手順を実行します。

1. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー campaign/partitions/partitionN を作成します。
2. Campaign レポートの場合、<PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー Unica Dashboard/Campaign/partitions/partitionN を作成します。
3. Affinium Campaign および Affinium Campaign - オブジェクト固有のレポート・フォルダーを Campaign\_Home/reports からコピーして、<PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/campaign/partitions/partitionN に配置します。N はパーティション番号です。
4. Campaign ダッシュボードの場合、rpt 設計ファイルを Campaign\_Home/reports/Unica Dashboards/Campaign フォルダーから <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Unica Dashboard/Campaign/partitions/partitionN にコピーします。
5. Deliver レポートの場合、<PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー Unica Dashboard/Deliver/partitions/partitionN を作成します。

6. Deliver ダッシュボードの場合、rpt 設計ファイルを Campaign\_Home/reports/Unica Dashboards/Deliver フォルダーから <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Unica Dashboard/Deliver/partitions/partitionN にコピーします。
7. Campaign レポートとダッシュボード、および Deliver レポートとダッシュボードの場合、insightsdbutil.sh/bat を実行して <PLATFORM\_HOME>/Insights/tools/bin のレポート設計ファイルのデータ・ソースを更新します。Unica Insights DB ユーティリティについて詳しくは、「[Unica Insights ユーティリティを使用した Unica Insights レポート設計ファイルのデータ・ソースの更新\(28 ページ\)](#)」セクションを参照してください。
  - Campaign システム・データベース用に DeliverDS を構成する必要があります。
8. これは、バージョン 12.1.0.3 以降に適用されます。以下のプロパティ・ファイルを <Unica\_Home>\Platform\Insights\Reports\Resources\ にコピーします (コピー元のディレクトリーを以下に示します)。
  - Campaign\_Home/reports/Resources/Campaign/\*.properties
  - Campaign\_Home/reports/Resources/Deliver/\*.properties

[データ同期のセットアップ\(25 ページ\)](#) を続行してください。

 **注:** Campaign インストール・ホストと Unica Insights アプリケーション・サーバー・ホストが同じ場合でも、Platform\_Home/Insights/Reports のインストール・ディレクトリーからレポート設計ファイルをコピーすることを勧めます。フォルダー構造は campaign/partitions/partitionN である必要があります。

## Unica Campaign および Unica Deliver 専用のビューまたは具体化されたビューの作成:

SQL スクリプトを使用して、Unica Campaign および Unica Deliver 用のビューまたは具体化されたビューを作成することができます。レポート・アプリケーションは、ビューまたは具体化されたビューを使用して、レポート可能データを抽出します。

 **注:** Oracle および DB2® の場合、Unica Deliver には具体化されたビューが必要です。SQL Server の場合、Unica Deliver にはビューが必要です。

Unica Campaign または Unica Deliver 用のビューまたは具体化されたビューを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 前に生成して保存してある SQL スクリプトを見つけます。
2. データベース管理ツールを使用して、構成するレポート・パッケージに該当するアプリケーション・データベースに対して適切なスクリプトを実行します。

 **注:** DB2® データベースで具体化されたビューを作成するスクリプトを実行すると、次のエラーが表示される場合があります。

SQL20059W マテリアライズ照会表 table-name は、照会の処理を最適化するために使用できません。

この場合でも、具体化されたビューは正常に作成されます。

3. DB2® データベースを使用する Unica Campaign の場合は、DB2® ヒープ・サイズを 10240 以上に増やします。デフォルトのヒープ・サイズは 2048 です。次のコマンドを使用して、ヒープ・サイズを増やします。

```
db2 update db cfg for databasename using stmtheap 10240
```

databasename は、Unica Campaign データベースの名前です。

ヒープ・サイズを増やすことで、ユーザーが収支サマリー・レポートのようなレポートの実行時にキャンペーンをすべて選択した場合でも、Unica Insights が SQL エラー・メッセージを表示することがなくなります。

[データ同期のセットアップ\(25 ページ\)](#) を続行してください。

## Unica Insights ディレクトリー内の Plan レポート・フォルダーのコピー

ダッシュボード・レポートの設計ファイル名を派生させる際、Platform ではデータベース・タイプが必要です。以下のプロパティーに正しいデータベース・タイプを設定する必要があります。

```
Affinium|Plan|umoConfiguration|DBType
```

以下の手順を実行します。

1. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー「Plan」を作成します。
2. フォルダー - **Affinium Plan** および **Affinium Plan - オブジェクト固有のレポート** を <PLAN\_HOME>/reports/Insights\_Reports からコピーして、<PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Plan に配置します。
3. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports に Unica Dashboard フォルダーを作成します (まだ作成されていない場合)。

 **注:** <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Unica Dashboard のフォルダーが「Plan」であることを確認します。

4. **Unica Dashboard** フォルダーのそれぞれの DB rpt 設計ファイルを <PLAN\_HOME>/reports/Insights\_Reports から <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Unica Dashboard/Plan にコピーします。
5. rpt 設計ファイルの実行権限を持っていることを確認します。
6. Affinium|Insights|navigation のナビゲーション URL およびポートを更新します。DBType は、Affinium|Plan|umoConfiguration の下に正しく表示されるはずですが。
7. Affinium|Plan|umoConfiguration|reports に移動し、以下のプロパティーを変更します。例:

|                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| reportsAnalysisSectionHome | Plan/Affinium Plan                 |
| reportsAnalysisTabHome     | Plan/Affinium Plan - オブジェクト固有のレポート |

 **注:** これらのプロパティーのパスの先頭にスラッシュ (/) を含めないでください。

## Unica Insights ディレクトリー内の Collaborate レポート・フォルダーのコピー

Collaborate レポートは、バージョン 12.1.0.3 以降でサポートされています。

Insights ディレクトリーに Collaborate レポート・フォルダーをコピーするには、以下の手順を実行します。

1. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー「Collaborate」を作成します。
2. **Affinium Collaborate** フォルダーを <Collaborate\_HOME>/Insights\_Reports からコピーして、PLATFORM\_HOME/Insights/Reports/campaign/partitions/<value of defaultCampaignPartition parameter> に配置します。  
「defaultCampaignPartition」構成パラメーターの値は、Affinium|Collaborate|UDM Configuration Settings|Campaign Integration の下の Platform 構成で確認できます。
3. Collaborate レポートの場合、insightsdbutil.sh/bat を実行して、<PLATFORM\_HOME>/Insights/tools/bin のレポート設計ファイルのデータ・ソースを更新します。Unica Insights DB ユーティリティについて詳しくは、「[Unica Insights ユーティリティを使用した Unica Insights レポート設計ファイルのデータ・ソースの更新\(28 ページ\)](#)」セクションを参照してください。
4. rpt 設計ファイルの実行権限を持っていることを確認します。
5. Affinium|Insights|navigation のナビゲーション URL およびポートを更新します。

## Unica Interact 専用のビューまたは具体化されたビューの作成

SQL スクリプトを使用して、Interact 用のビューまたは具体化されたビューを作成することができます。レポート・アプリケーションは、ビューまたは具体化されたビューを使用して、レポート可能データを抽出します。

Interact 用のビューまたは具体化されたビューを作成するには、その前に、lookup\_create SQL スクリプトを実行するコンピューターの言語設定で UTF-8 エンコード方式が有効になっていることを確認してください。

Interact 用のビューまたは具体化されたビューを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 前に生成して保存してある SQL スクリプトを見つけます。
2. データベース管理ツールを使用して、構成するレポート・パッケージに該当するアプリケーション・データベースに対して適切なスクリプトを実行します。

 **注:** DB2 データベースで具体化されたビューを作成するスクリプトを実行すると、次のエラーが表示される場合があります。

```
SQL20059W The materialized query
table-name may not be used to optimize the processing of queries.
```

この場合でも、具体化されたビューは正常に作成されます。

1. Interact インストール・ディレクトリーにあるレポート・フォルダーの tools サブディレクトリーで、データベースに適した uari\_lookup\_create\_<db\_type>.sql スクリプトを見つけます。例えば、SQL Server の場合、スクリプトは <INTERACT\_HOME>/Interact/reports/tools/uari\_lookup\_create\_MSSQL.sql にあります。
2. uari\_lookup\_create スクリプトを Interact 設計時データベースで実行します。
3. <INTERACT\_HOME>/Interact/reports/tools パスで uari\_lookup\_populate.sql スクリプトを見つけて、Interact 設計時データベースで実行します。

 **注:** 使用したデータベース・ツールが、変更を確実にコミットすることを確認してください。例えば、データベースの自動コミット・オプションを true に設定しなければならない場合があります。

[データ同期のセットアップ\(25 ページ\)](#) を続行してください。

## Unica Insights ディレクトリー内の Interact レポート・フォルダーのコピー

Interact インストーラーは、レポート設計フォルダー/ファイルを Platform インストール・ディレクトリーに配置します。製品レポートごとにレポート・フォルダーを Insights.war が配置されているサーバーに手動でコピーする必要があります。Interact インストール・ホストと Unica Insights アプリケーション・サーバー・ホストが同じ場合でも、レポート設計ファイルをインストール・ディレクトリーからアプリケーション・サーバー・ホストの新規ディレクトリーにコピーすることをお勧めします。Unica Interact レポートは、partition\_home ディレクトリーに配置されます。

以下の手順を実行します。

1. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports にフォルダー campaign/partitions/partitionN を作成します。
2. Unica Interact および Unica Interact - オブジェクト固有のレポート・フォルダーを Interact\_Home/reports からコピーして、<PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/campaign/partitions/partitionN に配置します。N はパーティション番号です。
3. <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports に Unica Dashboard/Interact/partitions/partitionN フォルダーを作成します。
4. rpt 設計ファイルを Interact\_Home/reports/Unica Dashboards/interact フォルダーから <PLATFORM\_HOME>/Insights/Reports/Unica Dashboard/Interact/partitions/partitionN にコピーします。

[データ同期のセットアップ\(25 ページ\)](#) を続行してください。

 **注:** Campaign インストール・ホストと Unica Insights アプリケーション・サーバー・ホストが同じ場合でも、Platform\_Home/Insights/Reports のインストール・ディレクトリーからレポート設計ファイルをコピーすることをお勧めします。フォルダー構造は campaign\partitions\partitionN である必要があります。

## レポート・テーブルの作成およびデータ設定

設計時データベースとランタイム・データベースに以下のビューをインポートする必要があります。このステップでは、お客様所有のツールを使用する必要があります。SQL は SQL ジェネレーターでは生成されません。

- Campaign データベースでビューを実行します。Interact インストーラーは、これらのビューが含まれている Interact のインストール先の下にデータベース・スクリプトを配置します。スクリプトは、`<INTERACT_HOME>/reports/ddl/<dbtype>/InteractDT.sql` にあります。
- Interact ランタイム・データベースでビューを実行します。Interact インストーラーは、これらのビューが含まれている Interact のインストール先の下にデータベース・スクリプトを配置します。スクリプトは、`<INTERACT_HOME>/reports/ddl/<dbtype>/InteractRT.sql` にあります。

 **注:** CLI を使用してスクリプトを実行する際に問題が発生した場合は、IBM Data Studio Client を使用する必要があります。あるいは、スクリプトを実行する前に、ファイルで指定されている SQL ステートメントから先頭または末尾のスペースを削除し、すべてのステートメントをセミコロンで閉じておきます。

## データ同期のセットアップ

データベース管理ツールを使用して、必ず HCL Unica アプリケーションの実動データベースと具体化されたビューの間の定期的なデータ同期をスケジュールしてください。

データ同期をセットアップするには、ご使用のアプリケーションおよびデータベース・タイプに応じて、以下のガイドラインを使用してください。

- Unica Campaign の場合は、スケジュールされた抽出、変換、およびロード (Extraction、Transformation、および Load (ETL)) 方式または任意のカスタム方式を使用して、実動データベースと新規レポート・テーブルの間の定期的なデータ同期をスケジュールします。
- Oracle または DB2 データベース上の Unica Interact の場合は、スケジュールされた抽出、変換、およびロード (Extraction、Transformation、および Load (ETL)) 方式または任意のカスタム方式を使用して、実動データベースと新規レポート・テーブルの間の定期的なデータ同期をスケジュールします。
- SQL Server 上の Unica Interact の場合は、スケジュールされた抽出、変換、およびロード (Extraction、Transformation、および Load (ETL)) 方式または任意のカスタム方式を使用して、実動データベースと新規レポート・テーブルの間の定期的なデータ同期をスケジュールします。

## Unica Deliver の場合のみ: デルタ処理のためのストアード・プロシージャ

Unica Deliver レポートには、Unica Deliver システム・テーブルに関連付けられたステージング・テーブルが必要です。システム・テーブルは、Unica Campaign スキーマの一部です。Unica Deliver レポートで使用するメッセージ応答データを処理するためのストアード・プロシージャを、定期的に行う必要があります。

スキーマの変更については、「Unica Deliver System Tables and Data Dictionary」を参照してください。

Unica Deliver ストアード・プロシージャの初回セットアップは、以下のデータベース・スクリプトに依存しています。

- `acer_indexes_dbname.sql`
- `acer_tables_dbname.sql`
- `acer_scripts_dbname.sql`

**注:** 上記の sql ファイルの実行中に問題が発生した場合は、データベース・クライアントに基づいてスクリプト・ターミネーターを使用します。データベース・クライアントで acer\_scripts\_dbname.sql のエラーが発生した場合は、プロシーチャーを1つずつ作成します。

Oracle、IBM® DB2®, および Microsoft™ SQL Server データベースの場合、データベース・スクリプトは Campaign\reports\Deliver-ddl ディレクトリー内にあります。

このスクリプトで、索引、テーブル、ビュー、およびストアード・プロシーチャーがセットアップされます。ストアード・プロシーチャーは、ステージング・テーブルにデータを設定するためにメッセージ・データをリフレッシュします。バッチ・プロシーチャーを定期的に行って、ステージング・テーブルにデータを設定する必要があります。このストアード・プロシーチャーを実行する操作を、デルタ処理といいます。

Unica Deliver ストアード・プロシーチャーの初回の実行は、テーブルに入れられているデータの量によっては、完了までに長時間を要する可能性があります。後続のデルタ処理も、完了までに長時間を要する可能性があります。ストアード・プロシーチャーによって処理されるメール配信インスタンス (コンテナ) の数を制限することにより、処理時間を大幅に削減することができます。

デフォルトでは、データは過去 90 日間について処理されます。ただし、Unica Deliver 用の SQL スクリプトを実行する前または後に、デフォルト値を変更できます。

## Oracle の場合の例

Oracle データベースを対象とした次の例は、処理を過去 30 日のみに制限するために acer\_tables スクリプトに加えることができる変更を示しています。

**注:** この変更には、UARE\_MAILING\_MASTER ビューの変更も含まれます。

### 現行ビューの定義

```
CREATE VIEW UARE_MAILING_MASTER AS
(
(SELECT UCC_CONTAINER.CAMPAIGNID,UCC_CONTAINER.CONTAINERID,
substr(UCC_CONTAINERATTR.STRINGVALUE,1,100) AS CAMPAIGN_NAME,
UCC_CONTAINER.CONTAINERNAME AS MAILING_INST,
UCC_CONTAINER.CREATED AS MAILING_CREATED,
UCC_CONTAINER.CONTAINERTYPEID CONTAINERTYPEID,
UCC_CONTAINER.CONTCHANNELTYPEID CONTCHANNELTYPEID
FROM
UCC_CONTAINER,UCC_CONTAINERATTR
WHERE
UCC_CONTAINERATTR.CONTAINERID=UCC_CONTAINER.CONTAINERID AND
UCC_CONTAINERATTR.ATTRIBUTENAME='CampaignName' AND
UCC_CONTAINER.CREATED >= sysdate - 91
)
```

### 変更後のビューの定義

```
CREATE VIEW UARE_MAILING_MASTER AS
(
SELECT UCC_CONTAINER.CAMPAIGNID, UCC_CONTAINER.CONTAINERID,
substr(UCC_CONTAINERATTR.STRINGVALUE,1,100) AS CAMPAIGN_NAME,
UCC_CONTAINER.CONTAINERNAME AS MAILING_INST, UCC_CONTAINER.CREATED AS
MAILING_CREATED FROM UCC_CONTAINER,UCC_CONTAINERATTR WHERE
UCC_CONTAINERATTR.CONTAINERID=UCC_CONTAINER.CONTAINERID AND
UCC_CONTAINERATTR.ATTRIBUTENAME='CampaignName'
```

```
AND
UCC_CONTAINER.CREATED >= sysdate - 30
)
```

使用可能なレポート・データをすべて表示するには、UARE\_MAILING\_MASTER ビューを変更してビューから日付フィルターを削除します。次に、Oracle または DB2® の具体化されたビューをすべてリフレッシュします。例えば、上記のビュー作成のサンプルの場合は、次の行を削除します。

```
UCC_CONTAINER.CREATED >= sysdate - 30
```

## Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャ、ステージング表および索引の作成

レポート・テンプレートをインストールまたはアップグレードした後、Unica Deliver レポートを生成する前に特定の SQL スクリプトを実行する必要があります。この SQL スクリプトはストアード・プロシージャとステージング・テーブルを作成します。

Campaign/reports/Deliver-ddl ディレクトリーはサーバー上にあります。このディレクトリーには、Oracle、IBM® DB2®、および Microsoft™ SQL Server 用の以下のデータベース・スクリプトが含まれています。

- acer\_indexes\_dbname.sql
- acer\_tables\_dbname.sql
- acer\_scripts\_dbname.sql

 **注:** 上記の sql ファイルの実行中に問題が発生した場合は、データベース・クライアントに基づいてスクリプト・ターミネーターを使用します。データベース・クライアントで acer\_scripts\_dbname.sql のエラーが発生した場合は、プロシージャを 1 つずつ作成します。

Unica Campaign データベースに対し、以下のスクリプトをこの順序で実行します。

### 1. acer\_indexes\_dbname.sql

スクリプトが完了するまでに十分な時間がかけられることを確認してください。所要時間は、Unica Deliver システム・テーブルに保管されているデータ量に応じて異なります。

### 2. acer\_tables\_dbname.sql

このスクリプトは、Unica Deliver システム・スキーマにデルタ処理ステージング表を作成します。

### 3. acer\_scripts\_dbname.sql

 **重要:** DB2® データベースの場合は、終了文字を ; (セミコロン) から ! (感嘆符) に変更してください。

このスクリプトは、Unica Deliver にレポートをインストールした後で構成する必要があるストアード・プロシージャを作成します。

### 4. Campaign\reports\tools ディレクトリーに移動し、Campaign インストールの下で、以下のスクリプトを見つけてください。

- uare\_lookup\_create\_DB\_type.sql
- uare\_lookup\_populate\*.sql: すべての言語について、Unica Campaign システム・テーブル・データベースに対してスクリプトを実行します。

**注:** Unica Insights は、4 文字のロケールをサポートしています。例えば、Unica\_home \Campaign\reports\tools ディレクトリーに、フランス語ロケール用の検索データ設定 SQL ファイルが 2 つある場合は、以下のようになります。

- uare\_lookup\_populate\_fr.sql
- uare\_lookup\_populate\_fr\_FR.sql

uare\_lookup\_populate\_fr\_FR.sql を実行し、他のファイルは無視する必要があります。

**注:** このストアード・プロシージャーを定期的に行われるように構成して、ステー징・テーブルにデータを設定する必要があります。Unica Deliver レポート用のストアード・プロシージャーを実行するまで、レポートのデータは確認できません。

ストアード・プロシージャーの実行とスケジューリングについては、[Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャーをスケジュールして実行する方法\(31 ページ\)](#) を参照してください。

## Unica Insights ユーティリティーを使用した Unica Insights レポート設計ファイルのデータ・ソースの更新

上記の詳細に従って db 固有のファイルをコピーしたら、<PLATFORM\_HOME>/Insights/tools/bin にある insightsdbutil.sh/bat を使用してレポートを実行するために必要なデータ・ソースを更新する必要があります。

このユーティリティーを実行するために必要なパラメーターは以下のとおりです。

- ds (製品データ・ソースの場合)
- bPath (Unica Insights レポート設計ファイル・パスの場合)
- DBType (Unica Insights 設計ファイル・データベース・タイプの場合)
- URL (データベースの JDBC URL の場合)
- user (データベース・ユーザーの場合)
- pwd (データベース・ユーザー・パスワードの場合)

パラメーターを更新するコマンドの例:

```
insightsDBUtil -ds=<datasource name>  
-bPath=<Report folder path> -DBType=<databasetype> [-URL=JDBC connection URL] [-user=<database  
user>] [-pwd=<database password>] [-locale=<Locale>]
```

以下のコマンドを使用すると、ユーティリティーの使用法を表示できます。

```
insightsDBUtil -h
```

以下のコマンドを使用すると、ローカライズの使用法を表示できます。

```
insightsDBUtil -h -locale=<Locale>
```

### 手順:

最初は、すべてのパラメーターが必須です。

UNIX の場合:

- インストール・ユーザーに対して、`-bPath=<Report folder path>` への読み取り、書き込み、および実行権限を付与します。
- 以下のコマンドを使用して、インストール・ユーザーに実行権限を付与します。

```
chmod 755 insightsDBUtil.sh
```

ユーザーは、特定のデータベースに関するヘルプに示されているように、すべてのパラメーターと JDBC URL を想定される形式で指定する必要があります。

- パスワードの更新: `-ds`、`-DBType`、`-URL` `-bPath`、および `-pwd` が必須です。
- ユーザー名の更新: `-ds`、`-DBType`、`-URL` `-bPath`、および `-user` が必須です。

パラメーターのヘルプ:

- `bPath`: Unica Insights レポート設計ファイル・パス: 必須
- `ds`: このパラメーターは製品データ・ソース用です: 必須
- `ds`: 使用可能なオプション (大/小文字が区別されます)
- `ds`: 製品: Campaign -> CampaignDS
- `ds`: 製品: Deliver -> DeliverDS
- `ds`: 製品: Plan -> PlanDS
- `ds`: 製品: Interact -> InteractDTDS
- `ds`: 製品: Interact -> InteractRTDS
- `ds`: 製品: Interact -> InteractLearningDS
- `ds`: 製品: Interact -> InteractETLDS
- `ds`: 製品: Collaborate -> CampaignDS
- `ds`: 製品: Collaborate -> CollaborateDS
- `ds`: 製品: Collaborate -> CustomerDS
- `DBType`: このパラメーターはデータベース・タイプ用です: 必須

#### DBType に使用可能なオプション

- `DBType`: データベース: Sql Server -> `sqlserver`
- `DBType`: データベース: DB2 -> `db2`
- `DBType`: データベース: Oracle -> `oracle`
- `DBType`: データベース: MariaDB -> `mariadb`
- `DBType`: データベース: OneDB -> `onedb`

#### URL

- `URL`: JDBC 接続の場合、このパラメーターは必須です。

`URL` は、最初の場合と、JDBC URL のいずれかのパラメーターが変更された場合に必須です。

#### URL に使用可能なオプション

- URL: Database : Sql Sever -> "jdbc:sqlserver://<HOST>:<PORT>;instance=<INSTANCE/OPTIONAL>;databaseName=<DB NAME>"

 **注:** Microsoft SQL Server の場合、上記の例に示すように、URL を引用符 (" ") で囲む必要があります。URL を引用符で囲まないと、エラーが表示されます。

- URL: Database : DB2 -> jdbc:db2://<HOST>:<PORT>/<sid>
- URL: Database : Oracle -> jdbc:oracle:thin:@<HOST>:<PORT>:<sid>
- URL: Database : MariaDB -> JDBC url:jdbc:host:port/<DB Name>
- URL: Database : OneDB -> sqli://InformixDbHost:1533/databaseName:informixserver=dbservername
- user: Database user name
- pwd: Database password

 **注:** DB2 の場合、Interact レポート設計ファイルを更新するときに、以下の URL を使用する必要があります。

URL:

```
Database : DB2 -> jdbc:db2://<HOST>:<PORT>/<sid>:
useJDBC4ColumnNameAndLabelSemantics=false;
```

 **注:** MariaDB の場合、Campaign レポート設計ファイルを更新するときに、以下の URL を使用する必要があります。

URL:

```
JDBC url:jdbc:mariadb://10.115.145.106:3306/up121x
```

## DB2 用ストアード・プロシージャに対する権限の付与

DB2 用ストアード・プロシージャを構成する前に、権限を付与する必要があります。

権限を付与するには、以下のステップを実行します。

1. 次のステップを実行して、レジストリーを有効にします。

- `DB2_ATS_ENABLE registry` 変数を以下のいずれかの値に設定します。
  - YES
  - TRUE
  - 1
  - ON
- 変数の設定後に、DB2 データベースを再始動します。

2. SYSTOOLSPACE 表スペースを作成します。

このスペースは、SYSADM グループまたは SYSCTRL グループに属するユーザーが作成できます。次の照会を使用して、このスペースが存在することを検証します。

```
SELECT TBSPACE FROM
SYSCAT.TABLESPACES WHERE TBSPACE = 'SYSTOOLSPACE'
```

3. 権限を付与します。次の例の値を、ご使用の環境に合わせて置き換えてください。

- DELIVER: Deliver システム・テーブルが含まれているデータベース
- USER1: Deliver データベースの所有者

- DB2ADMIN: DB2 管理ユーザー
  - 管理者: スーパーユーザー
4. 管理ユーザーとして DB2 に接続し、以下の GRANT コマンドを実行します。
- 管理ユーザーとして DB2 に接続し、以下の GRANT コマンドを実行します。
  - db2 GRANT DBADM ON DATABASE TO USER DB2ADMIN
  - db2 GRANT DBADM ON DATABASE TO USER USER1
  - db2 grant all on table SYSTOOLS.ADMINTASKS to USER1
  - db2 grant all on table SYSTOOLS.ADMINTASKS to DB2ADMIN
5. SYSPROC.ADMIN\_TASK\_ADD テーブルが存在する場合は、以下の GRANT コマンドを実行します。
- ```
db2 grant execute on
  procedure SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD to USER1
```
  - db2 grant execute on procedure SYSPROC.ADMIN\_TASK\_ADD to DB2ADMIN

## ストアード・プロシージャの構成に関するガイドライン

- データベースは DB2 バージョン 9.7.8 以上でなければなりません。
- DB2 Administrative Task Scheduler (ATS) で新規ジョブを作成します。
- 少なくとも毎日実行されるようにジョブをスケジュールします。他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように `schedule sp_runid` をスケジュールする必要があります。

## Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャをスケジュールして実行する方法

Unica Deliver レポートでは、ストアード・プロシージャによって設定されるステー징表に含まれるデータを使用します。ストアード・プロシージャは、デルタ・リフレッシュ操作を実行します。ストアード・プロシージャは、1 日 1 回以上実行します。それ以上の頻度でプロシージャを実行する場合、デルタ・リフレッシュ方式では、複数同時に実行することはできません。

次の表には、ストアード・プロシージャと、それによって実行されるタスクに関する情報が示されます。

**表 2. Deliver 用ストアード・プロシージャ**

| ストアード・プロシージャ                 | タスク                                                        |
|------------------------------|------------------------------------------------------------|
| sp_runid                     | 固有の実行 ID を作成します。実行 ID のリストは、UARE_Runid テーブルに保管されます。        |
| sp_update_ucc_tables_stats   | ucc_* テーブルの統計を更新します。このスクリプトは、sp_populate_* スクリプトの前に実行できます。 |
| sp_populate_mailing_contacts | ストアード・プロシージャの前の実行以降に受信したメール配信のコンタクト・データを処理します。             |

表 2. Deliver 用ストアード・プロシージャー

(続く)

| ストアード・プロシージャー                  | タスク                                                                                                                          |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| sp_populate_mailing_responses  | ストアード・プロシージャーの前の実行以降に受信したメール配信のレスポンス・データを処理します。                                                                              |
| sp_populate_sms_contacts       | SMS 機能が有効になっている場合: スタード・プロシージャーの前の実行以降に受信した SMS コンタクト・データを処理します。                                                             |
| sp_populate_sms_responses      | SMS 機能が有効になっている場合: スタード・プロシージャーの前の実行以降に受信した SMS レスポンス・データを処理します。                                                             |
| sp_populate_WhatsApp_contacts  | WhatsApp 機能が有効になっている場合: スタード・プロシージャーの前の実行以降に受信した WhatsApp コンタクト・データを処理します。                                                   |
| sp_populate_WhatsApp_responses | WhatsApp 機能が有効になっている場合: スタード・プロシージャーの前の実行以降に受信した WhatsApp レスポンス・データを処理します。                                                   |
| sp_get_delta_mailing_contacts  | sp_populate_mailing_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降に送信されたメール配信のコンタクトの取得を担当します。                          |
| sp_generate_mailing_contacts   | sp_populate_mailing_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降に実行されたメール配信でコンタクトを受けた顧客のメール配信とリンク・レベルのカウントの取得を担当します。 |
| sp_get_delta_mailing_responses | sp_populate_mailing_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降に受信したレスポンスの取得を担当します。                                |
| sp_generate_mailing_responses  | sp_populate_mailing_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降のメール配信およびリンク・レベルのレスポンスの取得を担当します。                    |
| sp_get_delta_sms_contacts      | sp_populate_sms_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降の SMS の取得を担当します。                                         |
| sp_generate_sms_contacts       | sp_populate_sms_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降に                                                        |

表 2. Deliver 用ストアード・プロシージャー

(続く)

| ストアード・プロシージャー                   | タスク                                                                                                                  |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                 | コンタクトを受けた顧客のメール配信とリンク・レベルのカウントの取得を担当します。                                                                             |
| sp_get_delta_sms_responses      | sp_populate_sms_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降の SMS レスポンスの取得を担当します。                           |
| sp_generate_sms_responses       | sp_populate_sms_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降のメール配信およびリンク・レベルの SMS レスポンスの取得を担当します。           |
| sp_get_delta_WhatsApp_contacts  | sp_populate_WhatsApp_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降の WhatsApp メッセージの取得を担当します。                  |
| sp_generate_WhatsApp_contacts   | sp_populate_WhatsApp_contacts プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降にコンタクトを受けた顧客のメール配信とリンク・レベルのカウントの取得を担当します。   |
| sp_get_delta_WhatsApp_responses | sp_populate_WhatsApp_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降の WhatsApp レスポンスの取得を担当します。                 |
| sp_generate_WhatsApp_responses  | sp_populate_WhatsApp_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降のメール配信およびリンク・レベルの WhatsApp レスポンスの取得を担当します。 |
| sp_populate_mobile_responses    | ストアード・プロシージャーの前の実行以降に受信したモバイル・レスポンス・データを処理します。                                                                       |
| sp_get_delta_mobile_responses   | sp_populate_mobile_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降に受信したレスポンスの取得を担当します。                         |
| sp_generate_mobile_responses    | sp_populate_mobile_responses プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアード・プロシージャーの前の実行以降のモバイル・レスポンスの取得を担当します。                        |

### ストアード・プロシージャーの実行に関するガイドライン

ストアード・プロシージャーを実行するときは、以下のガイドラインに従ってください。

- インストール・ファイルとともに提供されるスクリプトを使用して、データベース用にストアード・プロシージャを作成する必要があります。
- インストール済み環境のテーブルおよび索引のサイズを考慮します。テーブルが大きいほど、更新により多くの時間が必要です。コンタクト・データおよびレスポンス・データを処理するのに十分な時間を割り当ててください。初回の実行は、以降の実行に比べてより多くの時間を要する傾向があります。
- ストアード・プロシージャは長時間実行される場合があるので、システム・アクティビティが減少する夜間などの時間帯にプロシージャを実行することを検討してください。
- 処理されるレポート・データの有効範囲を制限することにより、レポート・データのリフレッシュに必要な時間を削減することができます。
- `scheduling_sp_runid` から少なくとも 10 分経過した後に実行されるように以下の手順をスケジュールする必要があります。
  - `sp_populate_mailing_contacts`
  - `sp_populate_mailing_responses`
  - `sp_populate_sms_contacts`
  - `sp_populate_sms_responses`
  - `sp_populate_WhatsApp_contacts`
  - `sp_populate_WhatsApp_responses`
  - `sp_populate_mobile_responses`

スクリプトが正常に実行されると、最終戻りコード 0 が表示されます。

## Oracle のストアード・プロシージャの構成例

Oracle データベース用ストアード・プロシージャを構成する際は、以下のガイドラインを使用してください。

### ストアード・プロシージャの構成に関するガイドライン

- は、Oracle Automatic Memory Management (AMM) の使用を推奨します。詳しくは、[http://docs.oracle.com/cd/B28359\\_01/server.111/b28310/memory003.htm](http://docs.oracle.com/cd/B28359_01/server.111/b28310/memory003.htm) を参照してください。
- SQL Plus などのデータベース・ユーティリティを使用して、ストアード・プロシージャを作成します。
- 他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように `sp_runid` プロシージャをスケジュールします。

### 実行 ID の作成例

次の例では、ジョブを作成し、実行 ID を生成する方法について説明します。この例ではまた、ジョブ完了時のジョブ ID についても説明します。

この例は、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
declare
jobno number;

BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_runid;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:00','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
```

```
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## E メール・コンタクト・データの処理例

次の例では、コンタクト・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。このジョブは、毎日 21:10 に実行されます。

```
declare
jobno number;

BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_mailing_contacts;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## E メール・レスポンス・データの処理例

次の例では、レスポンス・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。このジョブは、毎日 21:10 に実行されます。

```
declare
jobno number;

BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_mailing_responses;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## SMS コンタクト・データの処理例

**⚠ 重要:** SMS 機能は、デフォルト・レポート・オファリングには含まれておらず、この機能のライセンスを別個に購入する必要があります。しかし、デルタ配置は、SMS 機能を購入しているかどうかにかかわらず発生します。

次の例では、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_SMS_contacts;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## SMS レスポンス・データの処理例

次の例では、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_SMS_responses;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## WhatsApp コンタクト・データの処理例

**⚠ 重要:** WhatsApp 機能は、デフォルト・レポート・オファリングには含まれていません。この機能のライセンスを別途購入する必要があります。ただし、デルタ配置は、WhatsApp 機能を購入しているかどうかにかかわらず発生します。

次の例では、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_WhatsApp_Contacts;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## WhatsApp レスポンス・データの処理例

次の例では、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_WhatsApp_Responses;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
commit;
END;
/
```

## モバイル・レスポンス・データの処理例

次の例では、毎日 21:00 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。このジョブは、2014 年 11 月 29 日に開始されます。

```
BEGIN
DBMS_JOB.submit (job =>:jobno,
what => 'sp_populate_mobile_Responses;',
next_date => to_date('29-Nov-2014 21:10','DD-MON-YYYY HH24:MI' ),
interval => 'sysdate+1');
```

```
commit;
END;
/
```

## Microsoft™ SQL Server 用ストアード・プロシージャの構成例

Microsoft™ SQL Server データベース用ストアード・プロシージャを構成する際は、以下のガイドラインを使用してください。

### ストアード・プロシージャの構成に関するガイドライン

- SQL Server Agent を使用して、ストアード・プロシージャごとに新規ジョブを作成します。
- 少なくとも毎日実行されるようにジョブをスケジュールします。他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように sp\_runid をスケジュールする必要があります。
- SQL Server Agent インターフェースでのジョブごとに、ステップ・タイプを Transact-SQL スクリプト (T-SQL) として指定し、Unica Campaign データベースを選択する必要があります。

### 実行 ID の作成例

次の例は、実行 ID の作成方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int
EXEC @return_value = [dbo].[SP_RUNID]
SELECT 'Return Value' = @return_value
GO
```

### E メール・コンタクト・データの処理例

次の例は、E メール・コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
DECLARE @return_value int
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_MAILING_CONTACTS]
SELECT 'Return Value' = @return_value
GO
```

### E メール・レスポンス・データの処理例

次の例は、E メール・レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
DECLARE @return_value int
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_MAILING_RESPONSES]
SELECT 'Return Value' = @return_value
GO
```

### SMS コンタクト・データの処理例

次の例は、SMS コンタクト・データの処理方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_SMS_CONTACTS]
```

```
SELECT 'Return Value' = @return_value  
GO
```

### SMS レスポンス・データの処理例

次の例は、SMS レスポンス・データの処理方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int  
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_SMS_RESPONSES]  
SELECT 'Return Value' = @return_value  
GO
```

### WhatsApp コンタクト・データの処理例

以下の例は、WhatsApp コンタクト・データの処理方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int  
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_WHTSAPP_CONTACTS]  
SELECT 'Return Value' = @return_value  
GO
```

### WhatsApp レスポンス・データの処理例

以下の例は、WhatsApp レスポンス・データの処理方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int  
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_WHTSAPP_RESPONSES]  
SELECT 'Return Value' = @return_value  
GO
```

### モバイル・レスポンス・データの処理例

以下の例は、モバイル・レスポンス・データの処理方法を示しています。

```
DECLARE @return_value int  
EXEC @return_value = [dbo].[SP_POPULATE_MOBILE_RESPONSES]  
SELECT 'Return Value' = @return_value  
GO
```

## DB2 用ストアード・プロシージャの構成例

DB2® データベース用ストアード・プロシージャを構成する際は、以下のガイドラインを使用してください。

### ストアード・プロシージャの構成に関するガイドライン

- データベースは DB2® バージョン 9.7.8 以上でなければなりません。
- DB2® Administrative Task Scheduler (ATS) で新規ジョブを作成します。
- 少なくとも毎日実行されるようにジョブをスケジュールします。他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように sp\_runid をスケジュールする必要があります。

### 実行 ID の作成例

次の例では、毎日 20:50 (終了日なし) にジョブ番号を入手する方法を示しています。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('RunID_Job',null,null,  
null,'50 20 ** *','USER1','SP_RUNID',null,null,null)
```

## E メール・コンタクト・データの処理例

次の例では、コンタクト・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('Email_Contact_Job',null,null,null,'00 21 **',
'USER1','SP_POPULATE_MAILING_CONTACTS',null,null,null)
```

## E メール・レスポンス・データの処理例

次の例では、レスポンス・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('Email_Response_Job',null,null,
null,'00 21 **','USER1','SP_POPULATE_MAILING_RESPONSES',null,
null,null)
```

## SMS コンタクト・データの処理例

次の例では、コンタクト・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('SMS_Contact_Job',null,null,null,'00 21 **',
'USER1','SP_POPULATE_SMS_CONTACTS',null,null,null)
```

## SMS レスポンス・データの処理例

次の例では、レスポンス・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('SMS_Response_Job',null,null,
null,'00 21 **','USER1','SP_POPULATE_SMS_RESPONSES',null,
null,null)
```

## WhatsApp コンタクト・データの処理例

次の例では、コンタクト・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('WHTSAPP_Contact_Job',null,null,null,'00 21 **',
'USER1','SP_POPULATE_WHTSAPP_CONTACTS',null,null,null)
```

## WhatsApp レスポンス・データの処理例

次の例では、レスポンス・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('WhtsApp_Response_Job',null,null,
null,'00 21 **','USER1','SP_POPULATE_WHTSAPP_RESPONSES',null,
null,null)
```

## モバイル・レスポンス・データの処理例

次の例では、レスポンス・データを処理するバッチ・ジョブをスケジュールする方法を示しています。この例では、ジョブは毎日 21:00 に実行されます。

```
call SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD('Mobile_Response_Job',null,null,
null,'00 21 ** *', 'USER1','SP_POPULATE_MOBILE_RESPONSES',null,
null,null)
```

## DB2 用ストアード・プロシージャに対する権限の付与

DB2® 用ストアード・プロシージャを構成する前に、権限を付与する必要があります。

権限を付与するには、以下のステップを実行します。

1. 次のステップを実行して、レジストリーを有効にします。

- a. **DB2\_ATS\_ENABLE** レジストリー変数を、次のいずれかの値に設定します。

- はい
- TRUE
- 1
- オン

- b. 変数の設定後に、DB2® データベースを再始動します。

2. SYSTOOLSPACE 表スペースを作成します。

このスペースは、SYSADM グループまたは SYSCTRL グループに属するユーザーが作成できます。次の照会を使用して、このスペースが存在することを検証します。

```
SELECT TBSPACE FROM SYSCAT.TABLESPACES WHERE TBSPACE = 'SYSTOOLSPACE'
```

3. 権限を付与します。次の例の値を、ご使用の環境に合わせて置き換えてください。

- Deliver:Unica Deliver システム・テーブルを含んでいるデータベース
- USER1: Deliver データベースの所有者
- DB2ADMIN:DB2® 管理ユーザー
- 管理者: スーパーユーザー

4. 管理ユーザーとして DB2® に接続し、以下の GRANT コマンドを実行します。

- db2 GRANT DBADM ON DATABASE TO USER DB2ADMIN
- db2 GRANT DBADM ON DATABASE TO USER USER1
- db2 grant all on table SYSTOOLS.ADMINTASKS to USER1
- db2 grant all on table SYSTOOLS.ADMINTASKS to DB2ADMIN

5. SYSPROC.ADMIN\_TASK\_ADD テーブルが存在する場合は、以下の GRANT コマンドを実行します。

- db2 grant execute on procedure SYSPROC.ADMIN\_TASK\_ADD to USER1
- db2 grant execute on procedure SYSPROC.ADMIN\_TASK\_ADD to DB2ADMIN

## MariaDB 用ストアード・プロシージャの構成例

MariaDB データベース用ストアード・プロシージャを構成する際は、以下のガイドラインを使用してください。

## ストアド・プロシージャの構成に関するガイドライン

MariaDB イベントを使用して、ストアド・プロシージャごとに新規ジョブを作成します。

- 少なくとも毎日実行されるようにジョブをスケジュールします。他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように `sp_runid` をスケジュールする必要があります。
- Unica Campaign ユーザー・データベースのイベントを作成します。

### 実行 ID の作成例

次の例は、実行 ID の作成方法を示しています。

```
CREATE EVENT SP_RUNS
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:30:00'
DO
CALL SP_RUNID();
```

### E メール・コンタクト・データの処理例

次の例は、E メール・コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT EMAIL_CONTACT
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_MAILING_CONTACTS();
```

### E メール・レスポンス・データの例

次の例は、E メール・レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT EMAIL_RESPONSE
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_MAILING_RESPONSES();
```

### SMS コンタクト・データの処理例

次の例は、SMS コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT SMS_CONTACT
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_SMS_CONTACTS();
```

## SMS レスponse・データの処理例

次の例は、SMS レスponse・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT SMS_RESPONSE
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_SMS_RESPONSES();
```

## WhatsApp コンタクト・データの処理例

以下の例は、WhatsApp コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT WHTSAPP_CONTACT
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_WHTSAPP_CONTACTS();
```

## WhatsApp レスponse・データの処理例

以下の例は、WhatsApp レスponse・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT WHTSAPP_RESPONSE
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_WHTSAPP_RESPONSES();
```

## モバイル・レスponse・データの処理例

以下の例は、モバイル・レスponse・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
CREATE EVENT MOBILE_RESPONSE
ON SCHEDULE EVERY 1 DAY
STARTS '2020-11-20 20:40:00'
DO
CALL SP_POPULATE_MOBILE_RESPONSES();
```

## OneDB 用ストアード・プロシージャの構成例

OneDB データベース用ストアード・プロシージャを構成する際は、以下のガイドラインを使用してください。

### ストアード・プロシージャの構成に関するガイドライン

OneDB タスクを使用して、ストアード・プロシージャごとに新規ジョブを作成します。これらのタスクを作成するには、sysadmin データベースを使用します。

- Deliver データベースを初期化する前に、以下のコマンドを実行してください。

```
Set environment the DB_LOCALE and GL_USEGLS = 1
```

- 少なくとも毎日実行されるようにジョブをスケジュールします。他のスクリプトの少なくとも 10 分前に実行されるように sp\_runid をスケジュールする必要があります。
- Sysadmin データベースにタスクを作成します。

## 実行 ID の作成例

以下の例は、実行 ID を生成するタスクの作成方法を示しています。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'SP_RUNS',
'This task is to invoke procedure to generate runids for the deliver delta refresh runs.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE < Deliver_Database name>@<DB Server Instance>:SP_RUNID()',
'20:30:00','1 0:00:00', 0
);
```

## E メール・コンタクト・データの処理例

次の例は、E メール・コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'MAILING_CONTACTS',
'This task is to invoke procedure to populate mailing contacts.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE < Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_MAILING_CONTACTS()',
'20:40:00','1 0:00:00', 0
);
```

## E メール・レスポンス・データの例

次の例は、E メール・レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'MAILING_RESPONSES',
```

```
'This task is to invoke procedure to populate mailing responses.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_MAILING_RESPONSES()',
'20:40:00','1 0:00:00',0
);
```

## SMS コンタクト・データの処理例

次の例は、SMS コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'SMS_CONTACTS',
'This task is to invoke procedure to populate SMS contacts.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_SMS_CONTACTS()',
'20:40:00','1 0:00:00',0
);
```

## SMS レスポンス・データの処理例

次の例は、SMS レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'SMS_RESPONSES',
'This task is to invoke procedure to populate SMS responses.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_SMS_RESPONSES()',
'20:40:00','1 0:00:00',0
);
```

sysadmin データベースでスケジュール済みタスクの作成を確認するには、以下の照会を実行します。

```
SELECT * from ph_task;
```

実行ステータスを確認するには、sysadmin データベースをチェックインし、以下の照会を実行します。

```
select * from ph_run;
```

以下の照会を使用して、Deliver データベースで各チャンネル・プロセス・データをチェックインすることもできます。

```
Select * from uare_delta_refresh_log order by runid desc;
```

## WhatsApp コンタクト・データの処理例

以下の例は、WhatsApp コンタクト・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'WHTSAPP_CONTACTS',
'This task is to invoke procedure to populate WhatsApp contacts.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_WHTSAPP_CONTACTS()',
'20:40:00','1 0:00:00', 0
);
```

## WhatsApp レスポンス・データの処理例

以下の例は、WhatsApp レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'WHTSAPP_RESPONSES',
'This task is to invoke procedure to populate WhatsApp responses.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_WHTSAPP_RESPONSES()',
'20:40:00','1 0:00:00', 0
);
```

sysadmin データベースでスケジュール済みタスクの作成を確認するには、以下の照会を実行します。

```
SELECT * from ph_task;
```

実行ステータスを確認するには、sysadmin データベースをチェックインし、以下の照会を実行します。

```
select * from ph_run;
```

以下の照会を使用して、Deliver データベースで各チャンネル・プロセス・データをチェックインすることもできます。

```
Select * from uare_delta_refresh_log order by runid desc;
```

## モバイル・レスポンス・データの処理例

以下の例は、モバイル・レスポンス・データの処理方法を示しています。実行 ID を生成するジョブから少なくとも 10 分たった後に実行されるようにジョブをスケジュールします。

```
INSERT INTO ph_task
(
tk_name,tk_description,tk_type,tk_execute,tk_start_time,tk_frequency, tk_attributes
)
VALUES
(
'MOBILE_RESPONSES',
'This task is to invoke procedure to populate Mobile responses.',
'TASK',
'EXECUTE PROCEDURE <Deliver_Database_name>@<DBServer_Instance>:SP_POPULATE_MOBILE_RESPONSES()',
'20:40:00','1 0:00:00',0
);
```

sysadmin データベースでスケジュール済みタスクの作成を確認するには、以下の照会を実行します。

```
SELECT * from ph_task;
```

実行ステータスを確認するには、sysadmin データベースをチェックインし、以下の照会を実行します。

```
select * from ph_run;
```

以下の照会を使用して、Deliver データベースで各チャンネル・プロセス・データをチェックインすることもできます。

```
Select * from uare_delta_refresh_log order by runid desc;
```

## HCL Unica 認証を使用するように Unica Insights を構成する方法

### Unica Insights のフォルダーおよびレポートに対するユーザー権限

Unica Insights レポート機能は、**ReportsSystem** 役割および **ReportsUser** 役割を持つユーザーに対して許可されます。

### レポート・スキーマ

Unica Campaign、Unica Interact、および Unica Deliver にレポートを実装するには、レポート・ビューを作成する必要があります。レポートは、レポート・ビューでレポート可能データを抽出できます。Unica Campaign、Unica Interact、および Unica Deliver のレポート・パッケージには、レポート・ビューを作成する SQL スクリプトを生成するためにレポート SQL ジェネレーターで使用されるレポート・スキーマが含まれています。

Unica Campaign および Unica Interact の場合は、レポートに含めるデータが表示されるようにスキーマ・テンプレートをカスタマイズする必要があります。スキーマ・テンプレートをカスタマイズした後で、レポート SQL ジェネレーターを実行できます。SQL ジェネレーターが生成した SQL スクリプトを実行し、そのスクリプトをアプリケーション・データベースで実行することができます。

Unica Deliver レポート・スキーマはカスタマイズできません。ただし、レポート・ビューまたはレポート・テーブルを作成する SQL スクリプトを生成し、そのスクリプトを Deliver データベースで実行する必要があります。

## レポート SQL ジェネレーター

レポート SQL ジェネレーターは、レポート・スキーマを使用して、Unica アプリケーションのデータベースからデータを抽出するために必要な分析ロジックを判別します。次に、レポート SQL ジェネレーターは SQL スクリプトを生成します。このスクリプトにより、分析ロジックを実装し、ビジネス・インテリジェンス・ツールによるレポート作成用データの抽出を可能にする、ビューまたはレポート・テーブルが作成されます。

インストールおよび構成時に、システム実装者が Unica のアプリケーション・データベースを識別するデータ・ソース・プロパティを構成済みです。レポート SQL ジェネレーターは、以下のタスクを実行するためにアプリケーション・データベースに接続します。

- ビューまたは具体化されたビューを作成するスクリプトの検証
- レポート・テーブルを作成するスクリプトで使用するための正しいデータ型の判別

JNDI データ・ソース名が正しくないか欠落している場合、レポート SQL ジェネレーターは、レポート・テーブルを作成するスクリプトを検証できません。

また、異なるアプリケーション・サーバー・インスタンス/プロファイルに配置されている Unica Platform、Unica Campaign、および Unica Interact の場合、Unica Platform アプリケーション・インスタンス/プロファイルで Unica Campaign、Unica Interact ランタイムおよび Unica Interact 学習データ・ソースを追加する必要があります。

## レポート配置オプション

レポート SQL ジェネレーター・ツールの実行時に、配置オプションを選択できます。

レポート SQL ジェネレーター・ツールを実行する場合は、スクリプトでビュー、具体化されたビューを作成するかどうかを指定します。使用する配置オプションは、システムに含まれるデータの量によって異なります。[Unica Insights レポートのインストールと構成\(9 ページ\)](#) および [レポート SQL ジェネレーターのテンプレートのロード\(16 ページ\)](#) のセクションを参照して、さまざまな製品でサポートされるデータベースの詳細を取得してください。

- 小規模な実装環境の場合は、必要に応じて、実稼働データを直接照会するレポート・ビューを効率的に実行することができます。効率がよくない場合は、具体化されたビューを試してみてください。
- 中規模の実装環境の場合は、実稼働システム・データベースで具体化されたビューを使用するか、またはレポート・テーブルを別のデータベースにセットアップします。
- 大規模の実装環境の場合は、別個のレポートデータベースを構成します。

## 具体化されたビューおよび Microsoft™ SQL Server

レポート・アプリケーションは、Microsoft™ SQL Server の具体化されたビューをサポートしていません。

SQL Server では、具体化されたビューは「インデックス・ビュー」と呼ばれています。しかし、SQL Server 上のビューにインデックスを作成する定義では、特定の集計、関数、およびレポート・ビューが含まれているオプション

を使用することができません。したがって、SQL サーバー・データベースを使用している場合は、ビューまたはレポート・テーブルを使用してください。

 **注:** Unica Deliver の場合、ビューを使用する必要があります。

## Unica Deliver および Oracle

ご使用のシステムに Unica Deliver があり、データベースが Oracle である場合は、具体化されたビューまたはレポート・テーブルを使用する必要があります。

## Unica Deliver および DB2®

ご使用のシステムに Unica Deliver があり、データベースが DB2® である場合は、具体化されたビューまたはレポート・テーブルを使用する必要があります。

## データ同期

実体化ビューまたはレポート・テーブルと一緒に配置する場合、データを実稼働システムのデータと同期する頻度を決定します。その後、データベース管理ツールを使用して、データの同期化処理をスケジュールに入れ、定期的にレポート・データを最新表示してください。

Unica Deliver の場合、Unica Deliver デルタ・リフレッシュ・ストアード・プロシージャを実行するときに、具体化されたビューは自動的に最新表示されます。詳しくは、[Unica Deliver の場合のみ: ストアード・プロシージャをスケジュールして実行する方法\(31 ページ\)](#)を参照してください。

# Campaign レポートおよびレポート・スキーマ

Campaign レポート・パッケージに含まれるレポート・スキーマをカスタマイズするために、コンタクト、レスポンス・メトリック、属性、またはレスポンス・タイプを追加できます。

以下の方法で、Campaign レポート・パッケージのレポート・スキーマをカスタマイズすることができます。

- コンタクトまたはレスポンス・メトリックを追加する
- カスタムのキャンペーン、オファー、またはセル属性を追加する
- レスポンス・タイプを追加する
- パフォーマンス・レポートのオーディエンス・レベルを構成する
- 追加オーディエンス・レベル用のレポート・スキーマを作成する

以下の表では、Unica Campaign レポート・パッケージで提供されている個々の Unica Insights BI レポートを、それらをサポートするレポート・スキーマにマップしています。

## Unica Insights レポートからレポート・スキーマへのテーブル・マッピング

|                           |                                   |                                         |                                                    |                                 |                                                                             |
|---------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| キャン<br>ペーン<br>ビュース<br>キーマ | キャンペ<br>ーン・カ<br>スタム<br>属性スキ<br>ーマ | キャンペ<br>ーン・パ<br>フォー<br>マンス・<br>スキ<br>ーマ | オファー<br>・<br>キャン<br>ペーン<br>・レス<br>ポンス<br>・スキ<br>ーマ | キャン<br>ペーン<br>・レス<br>ポンス<br>の詳細 | オファー<br>の<br>コ<br>ン<br>タ<br>ク<br>ト<br>・<br>ス<br>テ<br>ータ<br>ス<br>の<br>内<br>訳 |
|---------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|

|                                     |   |                                     |                                         |                                           |                                         |                                            |                                           |
|-------------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 仮定オファー収支<br>サマリー・レポー<br>ト           | X | X                                   |                                         |                                           | X                                       |                                            |                                           |
| キャンペーン詳細<br>オファー・レスポ<br>ンスの詳細       | X |                                     | X                                       |                                           |                                         | X                                          |                                           |
| オファー・レスポ<br>ンスの詳細 (ダッ<br>シュボード版)    | X |                                     | X                                       |                                           |                                         | X                                          |                                           |
| オファー別のキャ<br>ンペーン収支サマ<br>リー (実績)     | X | X                                   | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| キャンペーン投資<br>収益率の比較                  | X | X                                   | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| 月単位のキャ<br>ンペーン・オ<br>ファー・パフォー<br>マンス | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| キャンペーン・パ<br>フォーマンス比較                | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| キャンペーン・レ<br>スポンス率の比較                | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
|                                     |   | <b>キャン<br/>ペーン<br/>ビュース<br/>キーマ</b> | <b>キャンペー<br/>ン・カス<br/>タム属性ス<br/>キーマ</b> | <b>キャンペー<br/>ン・パフォー<br/>マンス・ス<br/>キーマ</b> | <b>オファー・<br/>パフォー<br/>マンス・ス<br/>キーマ</b> | <b>キャン<br/>ペーン・オ<br/>ファー・レス<br/>ポンスの詳細</b> | <b>オファーのコ<br/>ンタクト・ス<br/>テータスの内<br/>訳</b> |
| 収益を伴うキャンペ<br>ーン・パフォーマンスの<br>比較      | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| イニシアチブ別のキャ<br>ンペーン・パフォーマ<br>ンス比較    | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |
| セル別のキャンペ<br>ーン・パフォーマンス・<br>サマリー     | X |                                     | X                                       |                                           |                                         |                                            |                                           |

|                                  |   |  |   |  |   |
|----------------------------------|---|--|---|--|---|
| 収益を伴うセル別キャンペーン・パフォーマンス・サマリー      | X |  | X |  |   |
| セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー | X |  | X |  |   |
| オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー        | X |  | X |  |   |
| 収益を伴うオファー別キャンペーン・パフォーマンス・サマリー    | X |  | X |  |   |
| オファー別のキャンペーン収益比較                 | X |  | X |  |   |
| キャンペーン・サマリー                      | X |  |   |  |   |
| オファー・キャンペーン・リスト                  | X |  |   |  |   |
| オファー・パフォーマンス・メトリック               | X |  |   |  | X |
| 日単位のオファー・パフォーマンス                 | X |  |   |  | X |
| 過去7日間のオファー・レスポンス                 | X |  |   |  | X |

|                | キャンペーンビュースキーマ | キャンペーン・カスタム属性スキーマ | キャンペーン・パフォーマンススキーマ | オファー・パフォーマンススキーマ | キャンペーン・レスポンスの詳細 | オファーのコンタクト・ステータスの内訳 |
|----------------|---------------|-------------------|--------------------|------------------|-----------------|---------------------|
| オファー・パフォーマンス比較 | X             |                   |                    | X                |                 |                     |
| オファー・レスポンス率の比較 | X             |                   |                    | X                |                 |                     |
| キャンペーン別のオファー・パ | X             |                   | X                  | X                |                 |                     |

## パフォーマンス・サマリー

次のレポートでは、Unica Campaign で提供されるカスタムのコンタクトおよびレスポンス・メトリック属性の標準セットを使用します。

- 仮定オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 収益を伴うキャンペーン・パフォーマンスの比較
- 収益を伴うセル別キャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- 収益を伴うオファー別キャンペーン・パフォーマンス・サマリー

## Unica Deliver レポートおよびレポート・スキーマ

Unica Deliver レポート・パッケージ内には、メッセージ概要レポート、詳細リンク・レポート、Deliver レポート処理の概要、SMS メッセージのサマリー・レポートなどのいくつかのレポートが用意されています。

**表 3. Unica Deliver レポートおよびレポート・スキーマ**

| レポート名                | メール配信パフォーマンス・スキーマ |
|----------------------|-------------------|
| メッセージ概要レポート          | X                 |
| 詳細リンク・レポート           | X                 |
| セル別詳細リンク・レポート        | X                 |
| 詳細バウンス・レポート          | X                 |
| A/B テスト・パフォーマンス・レポート | X                 |
| Deliver レポート処理の概要    | X                 |

## Interact レポートおよびレポート・スキーマ

Interact レポート・パッケージのレポートは、HCL レポート・スキーマによってサポートされています。スキーマをカスタマイズすれば、時間枠の指定、オーディエンス・レベルの構成、追加のパフォーマンス・レポート・スキーマの作成を行うことができます。

以下の方法で、Interact レポート・パッケージのレポート・スキーマをカスタマイズできます。

- パフォーマンス・レポートのカレンダーの時間枠を指定する。
- パフォーマンス・レポートのオーディエンス・レベルを構成する
- 追加オーディエンス・レベルの追加パフォーマンス・レポート・スキーマを作成する。

以下の表では、Interact レポート・パッケージで提供されている個々の Unica Insights BI レポートを、それらをサポートするレポート・スキーマにマップしています。

|                                                                                                                                  | 対話式<br>ビュー・<br>スキーマ | 対話実績<br>ビュー・ス<br>キーマ | 対話式チャンネル/<br>キャンペーン配<br>置履歴 | 対話ランタイ<br>ム・ビュー・<br>スキーマ | 対話学習<br>ビュー・ス<br>キーマ |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|----------------------|-----------------------------|--------------------------|----------------------|
| A/B テスト・パフォーマンス分析レ<br>ポート                                                                                                        |                     | X                    |                             |                          |                      |
|  <b>注:</b> このレポートは、バージョン<br>12.1.0.3 以降で使用できます。 |                     |                      |                             |                          |                      |
| キャンペーン - 対話式チャンネル配置履<br>歴                                                                                                        | X                   |                      | X                           |                          |                      |
| キャンペーン - 対話式セル・パフォー<br>マンス                                                                                                       | X                   | X                    |                             | X                        |                      |
| キャンペーン - オファー別対話式セ<br>ル・パフォーマンス                                                                                                  | X                   | X                    |                             | X                        |                      |
| キャンペーン - 対話式オファー・パ<br>フォーマンス                                                                                                     | X                   | X                    |                             | X                        |                      |
| キャンペーン - セル別対話式オ<br>ファー・パフォーマンス                                                                                                  | X                   | X                    |                             | X                        |                      |
| キャンペーン - 対話式オファー学習の<br>詳細                                                                                                        | X                   |                      |                             |                          | X                    |
| 対話式セルの上昇分析                                                                                                                       | X                   | X                    |                             | X                        | X                    |
| 対話式チャンネル - チャンネル配置履歴                                                                                                             | X                   |                      | X                           |                          |                      |
| 対話式チャンネル - チャンネル・イベン<br>ト・アクティビティのサマリー・レ<br>ポート                                                                                  | X                   |                      |                             | X                        |                      |
| 対話式チャンネル - チャンネル・インタラ<br>クション・ポイント・パフォーマン<br>ス・サマリー                                                                              | X                   | X                    |                             | X                        |                      |
| 対話式チャンネル - チャンネル処理ルー<br>ル・インベントリー                                                                                                | X                   |                      |                             |                          |                      |
| インタラクション・ポイント・パ<br>フォーマンス                                                                                                        | X                   | X                    |                             | X                        |                      |

## Interact イベント・パターン・レポート用のストアード・プロシージャー

Interact イベント・パターン・レポートは、ステージング・テーブルに格納されているデータを使用します。このデータは、ストアド・プロシージャーによって設定されます。ストアド・プロシージャーは、デルタ・リフレッシュ操作を実行します。

Interact イベント・パターン・レポートのデータは、以下の2つのステップで処理されます。

1. Interact ETL プロセスによってオーディエンス blob データが変換され、ETL データベース表に読み込まれます。
2. レポート統合機能により、事前に構成された並列実行でデータがパターン・タイプごとに増分的に集計されます。これは、Interact レポート・パック固有の機能です。

この両方のプロセスは、UACI\_ETLPATTERNSTATERUN テーブルに対するデータベース・トリガーと統合されています。このトリガーは ETL の実行が成功すると起動され、レポート・データを集計するデータベース・ジョブをサブミットします。

以下の表は、ストアド・プロシージャーと、それによって実行されるタスクに関する情報を示しています。

### Interact イベント・パターン・レポート用のストアド・プロシージャー

#### ストアド・プロシージャー タスク

|                              |                              |                                                                               |
|------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| SP_GENERATE_PATTERN_MATCHALL | SP_POPULATE_PATTERN_MATCHALL | プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアド・プロシージャーの前の実行以降に実行された「すべて一致」パターンのデータの取得を担当します。     |
| SP_GENERATE_PATTERN_COUNTER  | SP_POPULATE_PATTERN_COUNTER  | プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアド・プロシージャーの前の実行以降に実行された「カウンター」パターンのデータの取得を担当します。     |
| SP_GENERATE_PATTERN_WC       | SP_POPULATE_PATTERN_WC       | プロシージャーによって内部的に呼び出されます。ストアド・プロシージャーの前の実行以降に実行された「重みづけカウンター」パターンのデータの取得を担当します。 |
| SP_POPULATE_PATTERN_MATCHALL |                              | ストアド・プロシージャーの前の実行以降に受信した「すべて一致パターン」タイプのデータを処理します。                             |
| SP_POPULATE_PATTERN_COUNTER  |                              | ストアド・プロシージャーの前の実行以降に受信した「カウンター・パターン」タイプのデータを処理します。                            |
| SP_POPULATE_PATTERN_WC       |                              | ストアド・プロシージャーの前の実行以降に受信した「重みづけカウンター・パターン」タイプのデータを処理します。                        |

#### ストアド・プロシージャー タスク

|                             |                                                                |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------|
| SP_UPDATE_UACI_TABLES_STATS | トリガーによって呼び出され、データベース統計を更新し、レポート・データの集約のためのデータベース・ジョブをサブミットします。 |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------|

以下の ETL テーブルの統計を更新します。

- UACI\_ETLPATTERNSTATE
- UACI\_ETLPATTERNSTATEITEM
- UACI\_ETLPATTERNEVENTINFO

|                                                 |                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SP_POPULATE_PATTERN_LOCK<br>(p_parallel_degree) | <p>構成された並列実行の度合いで UARI_PATTERN_LOCK テーブルを更新します。</p> <p>p_parallel_degree は、並列に実行される集計処理の度合いです。</p> <p>MARIA DB の場合、ジョブはサポートされていません。ストアード・プロシージャは順次実行されます。</p> <p>MARIA DB の場合、p_parallel_degree は常に 1 です。</p>                        |
| SP_AGGR_RUN_STATUS                              | <p>集計処理が始まる前に Interact ETL プロセスによって呼び出され、実行中のストアード・プロシージャのロック状況を検査します。UARI_PATTERN_LOCK テーブルに対して実行されます。</p>                                                                                                                          |
| SP_REFRESH_PATTERNINFO                          | <p>Oracle および DB2 の場合のみ</p> <p>UARI_PATTERNSTATE_INFO テーブルをリフレッシュして、IC とカテゴリーの状態およびオーディエンス・レベル情報を取得します。</p> <p>このプロシージャは、集計プロシージャが開始する前にトリガーによって呼び出されます。</p> <p>Mviews は SQL Server ではサポートされないため、このプロシージャは SQL Server には適用されません。</p> |
| SP_UARI_REBIND_PACKAGES                         | <p>DB2 の場合のみ</p> <p>集計トリガーおよびプロシージャに関連付けられたパッケージを再バインドします。SP_UPDATE_UACI_TABLES_STATS プロシージャ呼び出しの後に、トリガーによって呼び出されます。</p>                                                                                                             |
| <b>ストアード・プロシージャ</b>                             | <b>タスク</b>                                                                                                                                                                                                                           |
| SQ_UARI_RUN                                     | <p>固有の実行 ID を作成します。実行 ID のリストは、UARI_RUNS テーブルに保管されます。</p>                                                                                                                                                                            |

SQL Server では、RunId 列の IDENTITY プロパティを使用して RunID が生成され、実行のたびに新しい ID が生成されます。

## データベース・トリガー

|                             |                                                                                                                                                      |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ストアード・プロシージャ</b>         | <b>タスク</b>                                                                                                                                           |
| TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS | <p>値 3 で UACI_ETLPATTERNSTATERUN テーブルが更新された後、データ集計のストアード・プロシージャを呼び出すジョブをサブミットすることにより、トリガーを起動します。</p> <p>OneDB の場合: これは、バージョン 12.1.0.3 以降に適用されます。</p> |

ストアード・プロシージャ AGGREGATE\_DELTA\_PATTERNS とともにデータベース・トリガー TR\_AGGREGATE\_DELTA\_PATTERNS を作成します。

OneDB の場合にのみ、ストアード・プロシージャ UARI\_PROCESSED\_PATTERNS テーブルを更新し、以下のサブストアード・プロシージャを呼び出す 3 つのジョブを作成します。

AGGREGATE\_DELTA\_PATTERNS SP\_POPULATE\_PATTERN\_MATCHALL、  
を作成します。 SP\_POPULATE\_PATTERN\_COUNTER、

これは、バージョン 12.1.0.3 以降に適用されます。 EXECUTE PROCEDURE SP\_POPULATE\_PATTERN\_WC。

ジョブ状態をブロックおよび追跡するために、ストアード・プロシージャの呼び出しごとに 2 つの ph\_task が使用されます。1 つの ph\_task は呼び出しの前に使用され、もう 1 つの ph\_task は呼び出しの完了後に使用されません。

## ETL プロセス

最初の実行時は、ETL は UARI\_DELTA\_PATTERNS テーブルのそれぞれの PatternID に対して値を挿入しません。すべてのパターンが新規またはデルタであるためです。レポート集計処理では、ETL テーブルからすべての PatternID が収集されて、UARI\_DELTA\_PATTERNS テーブルに挿入されます。

ETL プロセスは、SP\_AGGR\_RUN\_STATUS プロシージャを呼び出します。SP\_AGGR\_RUN\_STATUS プロシージャは、UARI\_PATTERN\_LOCK テーブルを検査して、JobID に基づいて実行中のジョブを調べます。

### JobID 値 理由

- Y ジョブは実行中。シナリオは実行中か失敗。
- N 失敗したジョブ。

ETL プロセスは常に、サブミットされたジョブの状況を検査することにより、レポート集計の状況を検査します。ETL は、レポート集計が実行中であることを検出すると、実行を開始しません。スケジュールに従って ETL が再度開始されます。

ETL プロセスは、UARI\_PATTERN\_LOCK テーブルを検査して、値が Y の JobID の数を調べます。値が Y の JobID がまったくない場合にのみ、ETL プロセスが開始されます。いずれかの JobID の値が Y であれば、ETL プロセスはスキップされ、スケジュールされた次の間隔で実行されます。ETL プロセスについて詳しくは、「Unica Interact 管理者ガイド」を参照してください。

2 回目の実行以降、ETL プロセスは、更新された PatternID について、UARI\_DELTA\_PATTERNS テーブルの更新フラグを更新します。

- 更新されたデータの場合は、PatternID に U のマークが付けられます。
- 削除されたデータの場合は、PatternID に D のマークが付けられます。
- 新しく追加されたデータの場合、PatternID はレポート集計コードで識別され、P のマークが付けられます。

集計処理は、U フラグまたは D フラグのマークが付けられた PatternID のみを対象に実行されます。

## Interact イベント・パターン・レポートのストアード・プロシージャの有効化

レポートを使用可能にするために実行したステップに加えて、Interact イベント・パターン・レポートを使用可能にする必要があります。Interact イベント・パターン・レポートでは、レポートのレンダリングを高速にするため、データの集計としてデルタ・リフレッシュ処理を使用します。

Administrative Task Scheduler (ATS) は、履歴データおよび構成情報を格納するための表スペースを必要とします。データベースに表スペースが定義されているかどうかを確認したり、表スペースを作成したりするには。

スケジュールされたジョブをタスク・スケジューラーから実行するには、データベースがアクティブであることが必要です。

ADMIN\_TASK\_STATUS は、ADMIN\_TASK\_ADD プロシージャが初めて呼び出されたときに作成される管理ビューです。これらのビューがデータベースに存在する必要があります。ビューがない場合は、データベース管理者に相談してビューを作成してください。ADMIN\_TASK\_STATUS 管理ビューに対するアクセス特権が必要です。

Interact イベント・パターン・レポート用ストアード・プロシージャを使用可能にするには、以下の手順を実行します。

1. <Interact\_Home>/reports/ddl/interact-ddl/<DB Type>/ フォルダを参照します。
2. DB2 の場合は、以下のパラメーターを設定します。
  - db2set DB2\_COMPATIBILITY\_VECTOR=ORA
  - db2set DB2\_ATS\_ENABLE=YES
3. インスタンスを再始動するときは、以下のコマンドをリスト順に実行して、DB2 をアクティブにする必要があります。
  - db2 force application all このインスタンス上のアプリケーションを停止します。
  - db2stop force DB2 を停止します。
  - db2start データベースを開始します。
  - db2 activate db <dbname> データベースを明示的にアクティブにします。次のメッセージが表示されるはずで: DB20000I ACTIVATE DATABASE コマンドが正常に完了しました。
  - db2 list active databases データベースがアクティブになったことを確認します。同様の出力が表示される必要があります。

```
Active Databases
Database name = <dbname> Applications connected currently = 0
Database path  = /data04/<DB instance
owner>/NODE0000/SQL00001/
```

4. ETL データベースに対して、以下のスクリプトをリスト順に実行します。
  - acir\_tables\_<DB Type>.sql
  - acir\_scripts\_<DB Type>.sql

**注:** `acir_tables_<DB Type>.sql` スクリプトがまだ実行されていなければ、実行する必要があります。

**注:** ターゲット・データベースで `acir_scripts_db2.sql` スクリプトを実行した後で例外がスローされる場合、トリガーを削除し、適切なデータベース・ユーザーで再作成します。

SQL Server の場合は、`acir_jobs_sqlserver.sql` スクリプトを実行します。このスクリプトでは、度合い 2 のデータベース・ジョブが作成されます。度合いを変更するには、「Interact イベント・パターン・レポートの並列実行の度合いの変更」を参照してください。

**注:** SQL Server エージェント・サービスが実行中であることを確認してください。

5. ETL プロセスの開始前に、UARI\_PATTERN\_LOCK テーブルに並列バッチ度合いレコードを作成する必要があります。これらのレコードを作成するには、以下のいずれかのコマンドを ETL データベースに対して実行します。

- Oracle の場合: `execute SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(2)`
- DB2 の場合: `call SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(2)`
- SQL Server の場合: `EXEC [dbo].[SP_POPULATE_PATTERN_LOCK]`

```
@p_parallel_degree = 2
```

この例の中の 2 は、集計処理の並列実行の度合いです。

UARI\_PATTERN\_LOCK テーブルに、ストアード・プロシージャが度合いの値とともに取り込まれます。度合いの値は構成可能です。Interact イベント・パターン・レポートの集計処理において並列実行の度合いを高めると、経過時間が減少します。度合いの設定値を大きくすると、ハードウェア・リソース要件もそれに比例して増大します。データ集計のために実行されるプロシージャ数は、度合いの値に応じて決まります。

- MariaDB の場合:

```
CALL SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(1);
```

度合いの並列実行は、MariaDB に対しては構成できず、その値は常に 1 になります。

- OneDB の場合: `CALL SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(2);`

6. オプション: ETL 機能の実行中は、トリガーを無効にして、レポート集計が呼び出されないようにすることができます。トリガーを無効にしてレポート集計処理をオフにするには、データベース・タイプに応じて以下のいずれかのコマンドを実行します。

- DB2 の場合: IBM サポートに連絡できます。
- Oracle の場合: `alter trigger TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS disable;`
- SQL Server の場合: `Disable Trigger TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS on uaci_etlpatternstaterun`
- MariaDB の場合: デフォルトで、トリガーは有効です。これは、以下のコマンドを使用して削除する必要があります。

```
DROP TRIGGER IF EXISTS TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS
```

- OneDB の場合: デフォルトで、トリガーは有効です。これは、以下のコマンドを使用して削除する必要があります。

```
DROP TRIGGER if exists TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS;;
```

7. オプション: トリガーを有効にしてレポート集計処理をオンにするには、データベース・タイプに応じて以下のいずれかのコマンドを実行します。

- DB2 の場合: IBM サポートに連絡できます。
- Oracle の場合: `alter trigger TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS enable;`
- SQL Server の場合: `Enable Trigger TR_AGGREGATE_DELTA_PATTERNS on uaci_etlpatternstaterun;`
- MariaDB の場合: デフォルトで、トリガーは有効です。

削除したら、トリガー作成コマンドで有効にできます。

トリガー作成コマンドについては、「`acir_scripts_mariadb.sql`」を参照してください。

- OneDB の場合: デフォルトで、トリガーは有効です。

削除したら、トリガー作成コマンドで有効にできます。

作成コマンドとともに「`acir_scripts_onedb.sql`」を参照してください。

`PROCEDURE AGGREGATE_DELTA_PATTERNS。`

 **注:** ETL が正常に完了すると、UACI\_ETLPATTERNSTATERUN テーブルの状況が 3 に更新され、トリガー TR\_AGGREGATE\_DELTA\_PATTERNS が呼び出されます。そのトリガーにより、並列実行の度合いを設定するストアド・プロシージャが呼び出されます。システムが初めてすべてのデータを集計するときのレポート集計処理に要する時間は、その後の集計より長くなる場合があります。

## Interact イベント・パターン・レポートの並列実行の度合いの変更

並列実行の度合いの値を構成することができます。Interact イベント・パターン・レポートの集計処理において並列実行の度合いを高めると、経過時間が減少します。この度合いを高い値に設定すると、ハードウェア・リソースの要件もそれに比例して高くなります。

Interact イベント・パターン・レポートのレンダリングが高速になるように、集計処理実行の度合いを構成します。

度合いの値が 3 のデータベース・ジョブを構成するには、ご使用のデータベースに応じて、以下のいずれかのステップを実行します。

- Oracle の場合: Interact の ETL データベースに対して、`execute SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(3)` コマンドを実行します。
- IBM DB2 の場合: Interact の ETL データベースに対して、`Run the call SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(3)。`
- SQL Server の場合: `default acir_jobs_sqlserver.sql` スクリプトを実行して、度合いの値が 1 および 2 のデータベース・ジョブを作成します。度合いの値が 1 および 2 のパターンが、UARI\_PROCESSED\_PATTERNS テーブルに集約されます。
- MariaDB の場合: 以下の `CALL SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(1);`  
度合いの並列実行は、MariaDB に対しては構成できず、その値は常に 1 になります。
- OneDB の場合: 以下の `CALL SP_POPULATE_PATTERN_LOCK(2);`

Match All Pattern (すべて一致パターン) を度合い 3 に変更するには、度合い 1 のサンプル・コードをコピーし、以下の手順を実行します。

1. @job\_name の値を JOB\_MA\_3 に設定します。
2. @p\_parallel\_degree の値を 3 に設定します。

Interact の ETL データベースに対して以下のコマンドを実行します。

```
DECLARE
@jobId BINARY(16),
@status int,
@schedule_name varchar(16), @dbname varchar(100)
set @dbname= (SELECT DB_NAME());

EXEC msdb.dbo.sp_add_job @job_name=N'JOB_MA_3', @job_id = @jobId OUTPUT;

EXEC msdb.dbo.sp_add_jobstep @job_id=@jobId, @step_name=N'first', @command=N'EXEC
[dbo].[SP_POPULATE_PATTERN_MATCHALL]
@p_parallel_degree = 3', @database_name=@dbname;

EXEC msdb.dbo.sp_add_jobserver @job_id=@jobId, @server_name=N'(local)';
GO
```

Counter Pattern (カウンター・パターン) および Weighted Counter Pattern (重みづけカウンター・パターン) の度合いを作成し、コマンドを ETL データベースに対して実行できます。

Counter Pattern を度合い 3 に変更するには、度合い 1 のサンプル・コードをコピーして、次の手順を実行します。

1. @job\_name の値を JOB\_C\_3 に設定します。
2. @p\_parallel\_degree の値を 3 に設定します。

Weighted Counter Pattern を度合い 3 に変更するには、度合い 1 のサンプル・コードをコピーして、次の手順を実行します。

1. @job\_name の値を JOB\_WC\_3 に設定します。
2. @p\_parallel\_degree の値を 3 に設定します。

## Interact イベント・パターン・レポートに対する UARI\_DELTA\_REFRESH\_LOG テーブル内のログ・メッセージ

UARI\_DELTA\_REFRESH\_LOG テーブルには、すべてのプロシーチャーのロギング情報が含まれています。

### 集計処理の状況

集計処理の状況を確認するには、次のテキストを見つけます。MESSAGE\_LINE:

```
<patterntype> patterns delta
refresh started for parallel degree <degree value>

<patterntype> patterns delta refresh completed for parallel degree <degree
value>
```

各部の意味は以下のとおりです。

- <patterntype> は、「すべて一致」、「カウンター」、または「重みづけカウンター」です。
- <degree value> は、パターンの並列処理に関する値です。例えば、度合いの値が 2 の場合は、以下のメッセージがログに記録されます。

```
MatchAll patterns delta refresh started for parallel degree
MatchAll patterns delta refresh completed for parallel degree
MatchAll patterns delta refresh started for parallel degree
MatchAll patterns delta refresh completed for parallel degree 2
```

## UARI\_PATTERNSTATE\_INFO テーブル

UARI\_PATTERNSTATE\_INFO テーブルが更新されたかどうかを確認するには、次のテキストを見つけます。

MESSAGE\_LINE:

```
Pattern State information refresh procedure started
--The procedure to refresh the data in UARI_PATTERNSTATE_INFO is running.
```

MESSAGE\_LINE:

```
Pattern State information refresh procedure completed
--The procedure to refresh the data in UARI_PATTERNSTATE_INFO is completed.
```

## SP\_AGGR\_RUN\_STATUS プロシージャによってリセットされたロック・フラグ

SP\_AGGR\_RUN\_STATUS プロシージャによってロック・フラグがリセットされたかどうかを確認するには、次のテキストを見つけます。

MESSAGE\_LINE:

```
patterns lock has been reset for parallel degree <degree value>
```

UARI\_DELTA\_REFRESH\_LOG テーブルの OBJECT 列には、ロックがリセットされたプロシージャの名前が含まれます。

各部の意味は以下のとおりです。<degree value> は、パターンの並列処理に関する値です。例えば、度合いの値が 1 の場合は、次のメッセージがログに記録されます。

```
patterns lock has been reset for parallel degree 1
```

## DB2 の場合のみ: パッケージの再バインド

DB2 の場合のみ: パッケージの再バインドが完了したことを確認するには、次のテキストを見つけます。

MESSAGE\_LINE:

```
Rebind of packages started
--Rebinding of the packages started
```

MESSAGE\_LINE:

```
Rebinding of packages completed successfully on <datetime>
--Rebinding of the packages completed successfully on the given date.
```

## ETL テーブルの統計の更新

ETL テーブルの統計が更新されたかどうかを確認するには、次のテキストを見つけます。

MESSAGE\_LINE:

```
Table statistics update
started
```

```
--Update statistics on the ETL
tables is in process
```

MESSAGE\_LINE:

```
Statistics on Tables
UACI_ETLPATTERNSTATE UACI_ETLPATTERNSTATEITEM
```

```
UACI_ETLPATTERNEVENTINFO and
indexes have been updated successfully on <datetime>
```

```
--Statistics are updated on the
mentioned ETL tables on the given date.
```

### 並列実行の度合い

並列実行の度合いを確認するには、次のテキストを見つけます。

MESSAGE\_LINE:

```
Pattern aggregation processing Parallel degree is set to <degree value>
```

```
--Parallel degree with which report aggregation will run is set to <degree value>.
```

例えば、度合いの値が 2 の場合は、次のメッセージがログに記録されます。

```
Pattern aggregation processing Parallel degree is set to 2.
```

## Unica Insights レポートの形式

グローバル・レポート・スタイル・シート GlobalReportStyles.css に組み込まれているスタイルを使用して、レポートのページを書式設定します。

| 項目             | スタイル           |
|----------------|----------------|
| テキスト           | Tahoma フォント    |
| レポート・タイトル・テキスト | Tahoma 18 ポイント |
| ページ・フッター・テキスト  | Tahoma 8 ポイント  |
| フィールド・セット・ラベル  | Tahoma 8 ポイント  |

### リスト・レポート・スタイル

グローバル・レポート・スタイル・シート GlobalReportStyles.css に組み込まれているスタイルを使用して、リスト・レポートを書式設定します。以下の表に、リスト・レポートに対する GlobalStyleSheet.css スタイル・シートの書式設定を示します。

| 項目    | スタイル                                                                       |
|-------|----------------------------------------------------------------------------|
| セル    | 1 px のシルバー (#c8c8c8) の境界線 (特に注記がない場合)                                      |
| 列ヘッダー | ライト・グレー (F5F5F5) の背景に、2 px のグレー (#c8c8c8) 線 (テーブルの残りの部分から列ヘッダーを分離させるためのもの) |

サマリー・ヘッダー行 (リスト・ヘッダー) ライト・イエローの背景

下部の合計行                      ダーク・グレーの背景に、2 px のグレー線 (テーブルの残りの部分から行を分離させるためのもの)

| 項目                  | CSS クラス名 | スタイル                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ページ - ヘッダー          | Ph       | font-family: "Tahoma";<br>font-size: 18pt;<br>font-weight: bold;                                                                                                                                                                                     |
| ページ - フッター          | Pf       | padding-top:10px;<br>font-size:8pt;<br>font-weight:bold;                                                                                                                                                                                             |
| テーブル - リスト列のタイトル・セル | Lt       | text-align:left;<br>border: 1px solid #c8c8c8;<br>background-color: #f5f5f5;<br>background-image: none!important;<br>font-weight:normal;<br>vertical-align: top;<br>padding: 10px 20px;<br>font-family: "Tahoma";<br>色: #444444;<br>font-size: 14px; |
| 項目                  | CSS クラス名 | スタイル                                                                                                                                                                                                                                                 |
| テーブル - リスト列の本文セルの内側 | lci      | border: none;<br>background-color: #f5f5f5!important;<br>text-align: right;<br>padding: 3px 5px; vertical-align: middle;                                                                                                                             |
| テーブル - リスト列のボディ・セル  | lcb      | border-top:1px solid #c8c8c8;<br>border-bottom:1px solid #c8c8c8;<br>border-left: 1px solid #c8c8c8;<br>border-right:1px solid #c8c8c8;<br>padding: 3px 5px;<br>text-align: left; vertical-align: middle;                                            |

|                             |      |                                                                                                                                                                |
|-----------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーブル - リスト列の本<br>文の測定セル     | lm   | font-family: "Tahoma";<br>vertical-align: top;<br>border: 1px solid #c8c8c8;<br>border-right: 0;<br>border-left: 0;<br>padding: 3px 5px;<br>text-align: right; |
| クロス集計 - 合計を示す<br>先頭行        | tr   | border-left: 2px solid black;<br>background-color: #f5f5f5 !important;<br>font-weight: bold;<br>padding: 3px 5px;                                              |
| 複雑な表の合計<br>-new class added | ctth | 色: #444444;<br>background-color: #f5f5f5; border-bottom: 2px solid #c8c8c8;<br>padding: 3px 5px;<br>border-left: 2px solid #c8c8c8;                            |
| テーブルの合計行                    | ttr  | 色: #444444;<br>font-weight: bold;<br>background-color: #f5f5f5;<br>padding: 3px 5px;                                                                           |
| テーブルの合計行                    | ctr  | 色: #444444;<br>font-weight: bold;<br>border-left: 2px solid #c8c8c8;<br>background-color: #f5f5f5;<br>border-bottom: 1px solid #c8c8c8;                        |
| テーブルの合計ヘッダー                 | cth  | 色: #444444;<br>border-bottom: 2px solid #c8c8c8;<br>border-left: 1.5px solid white;<br>border-right: 1.5px solid white;<br>font-weight: 100;                   |
| リスト - 内部ヘッダー・<br>セル         | ih   | border-top: 1px solid #c8c8c8;<br>border-bottom: 1px solid #c8c8c8;<br>padding: 3px 5px;                                                                       |

|                    |          |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リスト - 外部ヘッダー・セル    | oh       | vertical-align: middle;<br>font-weight: bold;<br>vertical-align: top;<br>border: 1px solid #c8c8c8;<br>border-right: 0;<br>border-left: 0; padding: 3px 5px; word-break:keep-all;<br>background-color: #f5f5f5;                                                         |
| 項目                 | CSS クラス名 | スタイル                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 外部ヘッダー・セル、上側に境界線   | ohl      | font-weight: bold;<br>vertical-align: top;<br>background-color: #ddd;<br>padding: 3px 5px;<br>word-break:keep-all;<br>border-top:2px solid black;<br>border-left:1.5px solid #c8c8c8;<br>border-right: 5pt solid #c8c8c8;<br>border-style:solid;<br>border-bottom:none; |
| クロス集計              | xt       | border: 2px solid #C8C8C8;<br>色: #444444;<br>empty-cells: show;<br>font-size: 16px;                                                                                                                                                                                     |
| クロス集計 - メンバーラベル・セル | ml       | font-style: normal !important;<br>色: black;<br>font-weight: 300;<br>height: 30px;<br>border-left: none;<br>border-right: none;<br>border-bottom:1px solid #c8c8c8;                                                                                                      |
| クロス集計 - メンバーラベル・セル | cht      | vertical-align: top;<br>background-color:transparent;<br>padding: 3px 5px;                                                                                                                                                                                              |

|                      |                   |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クロス集計 - メンバー値<br>セル  | mv                | <pre> text-align: left; vertical-align: top; white-space: nowrap; border: 1px solid #c8c8c8; padding: 3px 5px; text-align: right; border-left:none; border-right:none; vertical-align: top; white-space: nowrap; padding: 3px 5px; text-align: right; </pre> |
| フィールド・セット            | fs                | <pre> display: -moz-inline-block; display: inline; text-align: left; f ont-size:8pt; margin-bottom: 15px; color : #444444; </pre>                                                                                                                            |
| チャート                 | ch                | <pre> border:1pt solid #c8c8c8; </pre>                                                                                                                                                                                                                       |
| チャート - タイトル          | ct                | <pre> font-weight:bold; </pre>                                                                                                                                                                                                                               |
| チャート - 軸ラベル          | al                | <pre> font-size:10pt; </pre>                                                                                                                                                                                                                                 |
| チャート - 軸タイトル         | 場所                | <pre> font-weight:bold; text-align:center; font-size:10pt; color:#444444; </pre>                                                                                                                                                                             |
| 項目                   | CSS クラス名          | スタイル                                                                                                                                                                                                                                                         |
| チャート - チャート・パ<br>レット | XML レポート仕<br>様の場合 | XML レポート仕様のチャート・タグ (</combinationChart>) を閉じる前に、以下の行を貼り付けます。                                                                                                                                                                                                 |

```

<chartPalette>
<chartColor value="#6B80BE"/>
<chartColor value="#DDBB4D"/>
<chartColor value="#9CAC61"/>
<chartColor value="#78BF79"/>
<chartColor value="#7D5AA6"/>
<chartColor value="#efc100"/>
<chartColor value="#aeb8b8"/>

```

```
<chartColor value="#4178be"/>
</chartPalette>
```

|           |                |                                                                                                                                                   |
|-----------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ハイパーリンク   | .hy            | 色: #037bbf;<br>font-size: 14px;<br>font-family: "tahoma";                                                                                         |
| 合計を示す先頭列  | tf             | border-left: 2px solid black;<br>background-color: #f5f5f5 !important;<br>font-weight: bold;<br>padding: 3px 5px;                                 |
| 複雑な表の合計   | ctt            | 色: #444;<br>background-color: #f5f5f5 !important;<br>border-left: 2px solid black;<br>border-bottom: 1px solid #c8c8c8;<br>padding-left: 5px 5px; |
| 複雑な表の合計行  | cttr           | 色: #444444;<br>background-color: #f5f5f5;<br>font-weight: bold;<br>border-bottom: 1px solid #c8c8c8;                                              |
| リスト       | ls             | border: 1px solid #c8c8c8;<br>色: #444444;<br>empty-cells: show; margin-top: 10px;<br>font-size: 14px;                                             |
| 吹き出し選択クラス | hoverSelection | background-color: transparent !important;<br>色: #444444 !important;                                                                               |

さらに、新規リスト・レポートを作成する場合は、以下のガイドラインに従って既存のレポートに一致させてください。

- リスト・ヘッダー (リスト・フッターではなく) を使用して、集計をオブジェクト・レベルで表示します。
- リスト・ヘッダーに表示されている数字を手動で右寄せにします。リスト・フッターとは異なり、リスト・ヘッダーは、外部コンポーネントとサマリー・コンポーネントに分離されることはありません (両コンポーネントではデフォルトで右寄せのスタイルが使用されます)。リスト・ヘッダーに情報を集計する場合は、追加のステップを実行して値を右揃えにする必要があります。
- オプションで、グループ列に 2 px のグレーの実線で境界線を追加します。

以下の例は、グローバル・スタイルを使用しないリスト・レポートを示しています。

| Campaign Name                                      | Offer Name               | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Unique Recipients | Unique Responders | Consider Count | Consider Count | Explore Count | Fulfill Count | Usage Count |
|----------------------------------------------------|--------------------------|--------------|-----------------------|---------------|-------------------|-------------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-------------|
| CA_CentrositeBate (Customer Audience) (XXXXXXXXXX) |                          | 68           | 20                    | 29.27%        | 20                | 20                | 20             | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 20           | 0                     | 0.00%         | 20                | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | OfferCustomer (XXXXXXXX) | 48           | 20                    | 41.67%        | 0                 | 20                | 20             | 0              | 0             | 0             | 0           |
| FirstCampaign (XXXXXXXXXX)                         |                          | 1            | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 1            | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
| DefaultCampaignStrategy (XXXXXXXXXX)               |                          | 22           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 7            | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 20           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
| Project1_Campaign (Customer Audience) (XXXXXXXXXX) |                          | 68           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 20           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 23           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 25           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
|                                                    | Offer (XXXXXXXX)         | 10           | 0                     | 0.00%         | 0                 | 0                 | 0              | 0              | 0             | 0             | 0           |
| Report total                                       |                          | 181          | 20                    | 11.05%        | 60                | 20                | 20             | 0              | 0             | 0             | 0           |

### 英語バージョンの日付形式

グローバル化されたバージョンの HCL Unica レポート・パッケージを使用する場合は、使用するロケールに応じてリスト・レポートの日付形式が異なります。Unica Insights リスト・レポートは、中程度の長さの日付スタイルを使用します。

次の表に、使用可能なすべてのロケールでのリスト・レポートの日付形式を示します。

### グローバル化されたバージョンの Unica Insights リスト・レポートの日付形式

#### ロケール Unica Insights リスト・レポートの日付形式の例

英語 Apr 1, 2020

### クロス集計レポートのスタイル

グローバル・レポート・スタイル・シート GlobalReportStyles.css に組み込まれているスタイルを使用して、クロス集計レポートを書式設定します。

以下の表に、クロス集計レポートに対する GlobalStyleSheet.css スタイル・シートの書式設定を示します。

| 項目        | スタイル                                               |
|-----------|----------------------------------------------------|
| セル        | ライト・グレー (#f5f5f5) の背景、1 px のシルバーの境界線               |
| 測定セル (左上) | 2 px のグレー (#C8C8C8) の線 (クロス集計の残りの部分からセルを分離するためのもの) |
| 外部レベルの合計  | グレー/オフホワイトの背景                                      |

さらに、新規リスト・レポートを作成する場合は、以下のガイドラインに従って既存のレポートに一致させてください。

- 2 px のグレーの境界線を使用して、測定値から集計を分離します。
- 2 px のグレーの境界線を使用して、論理列グループをグループ化します。
- 一般的なガイドラインとして、同じレポート内で列と行の両方を集計しないようにしてください。

\*\*Number of Campaign(s) Selected: 5  
Date Range: Dec 6, 2019 to Mar 2, 2020

|                   | Dec 10, 2019 |                       |               | Feb 10, 2020 |                       |               | Total        |                       |               |
|-------------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|
|                   | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate |
| offer (000000001) | -            | -                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000002) | 26           | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000003) | 2            | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 2            | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000004) | 12           | 1                     | 8.33%         | -            | -                     | 0.00%         | 12           | 1                     | 8.33%         |
| offer (000000005) | -            | -                     | 0.00%         | 46           | 20                    | 43.48%        | 46           | 20                    | 43.48%        |

\*\*\* The number of offers listed in the report will not always equal the number of offers selected when some offers do not contain data specific to this report.

以下の例は、グローバル・スタイルを使用し、列のグループを示すために 1.5 px の境界線が適用されたクロス集計レポートを示しています。

\*\*Number of Campaign(s) Selected: 5  
Date Range: Dec 6, 2019 to Mar 2, 2020

|                   | Dec 10, 2019 |                       |               | Feb 10, 2020 |                       |               | Total        |                       |               |
|-------------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|
|                   | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate |
| offer (000000001) | -            | -                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000002) | 26           | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 26           | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000003) | 2            | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 2            | 0                     | 0.00%         |
| offer (000000004) | 12           | 1                     | 8.33%         | -            | -                     | 0.00%         | 12           | 1                     | 8.33%         |
| offer (000000005) | -            | -                     | 0.00%         | 46           | 20                    | 43.48%        | 46           | 20                    | 43.48%        |

\*\*\* The number of offers listed in the report will not always equal the number of offers selected when some offers do not contain data specific to this report.

## チャートのスタイル

グローバル・レポート・スタイル・シート GlobalReportStyles.css に組み込まれているスタイルを使用して、チャートを書式設定します。

以下の表に、チャートに対する GlobalStyleSheet.css スタイル・シートの書式設定を示します。

チャートは、GlobalStyleSheet.css から以下の書式設定を取得します。

| 項目       | スタイル              |
|----------|-------------------|
| チャート     | 1 pt のライト・グレーの境界線 |
| タイトルとラベル | 10 ポイントの太字フォント    |

さらに、新規チャートを作成する場合は、以下のガイドラインに従って既存のチャート・レポートに一致させてください。

- レポートに複数のチャートがない限り、デフォルトの幅を使用します。単一のレポートに複数のチャートを組み込む場合は、チャート幅を 750px に設定します。
- グラデーションやカラー・パレットを使用するには、「グローバル・レポートのスタイル」のテーブルからストリングをコピーして、XML レポート仕様に貼り付けます。
- 一般的なガイドラインとして、返される予定のデータに基づいてチャート・タイプを選択します。

- レポートが連続的なデータを取得すると保証できる場合にのみ、チャート・タイプとして折れ線グラフを使用してください。
- 複数の系列がある場合は、積み重ね棒グラフは、非積み重ね棒グラフより効果的です。
- ベスト・プラクティスとして、パーセント合計が 100% に等しい場合にのみ、パーセントを使用してください。値が 100% に達していない場合、円グラフではユーザーを混乱させる場合があります。
- チャートにある系列が 2 つだけであり、Y1 軸と Y2 軸の両方を表示する場合には、ベスト・プラクティスとして、色を軸ラベルの最初の 2 つのパレットの色に一致させる必要があります。

以下の例は、グローバル・スタイルを使用するチャートで、追加の書式設定が適用されています。

\*\*Number of Campaigns: Selected: 5  
Date Range: Dec 6, 2019 to Mar 2, 2020

|                            | Dec 18, 2019 |                       |               | Feb 18, 2020 |                       |               | Total        |                       |               |
|----------------------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|--------------|-----------------------|---------------|
|                            | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate | Offers Given | Response Transactions | Response Rate |
| offer1 (000000001)         | -            | -                     | 0.00%         | 20           | 0                     | 0.00%         | 20           | 0                     | 0.00%         |
| offer2 (000000002)         | 20           | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 20           | 0                     | 0.00%         |
| offer3 (000000003)         | 2            | 0                     | 0.00%         | -            | -                     | 0.00%         | 2            | 0                     | 0.00%         |
| offer4 (000000004)         | 15           | 1                     | 6.67%         | -            | -                     | 0.00%         | 15           | 1                     | 6.67%         |
| offerCustomAdv (000000005) | -            | -                     | 0.00%         | 40           | 20                    | 50.00%        | 40           | 20                    | 50.00%        |

\*\* The number of offers listed in the report will not always equal the number of offers selected when some offers do not contain data specific to this report

## チャートのスタイル

グローバル・レポート・スタイル・シート GlobalReportStyles.css に組み込まれているスタイルを使用して、チャートを書式設定します。

以下の表に、チャートに対する GlobalStyleSheet.css スタイル・シートの書式設定を示します。

チャートは、GlobalStyleSheet.css から以下の書式設定を取得します。

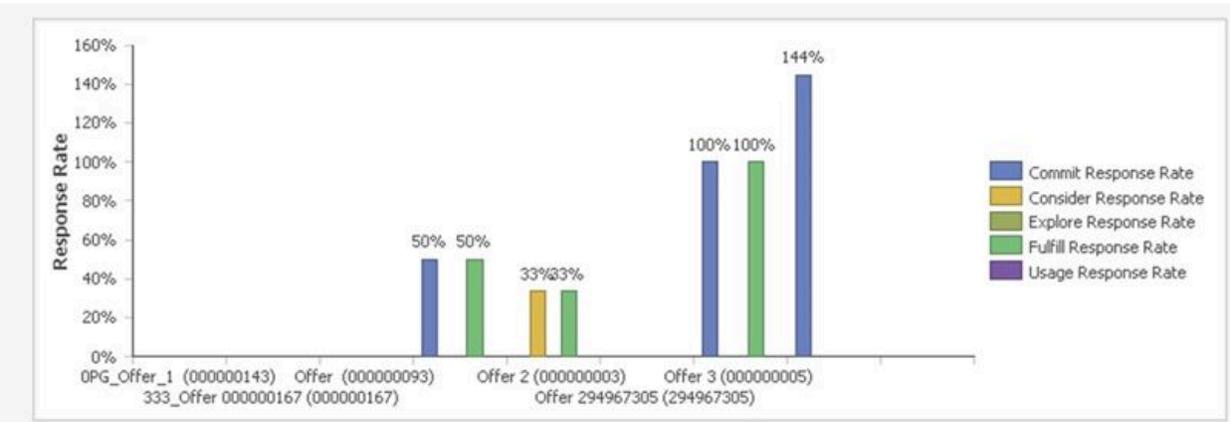
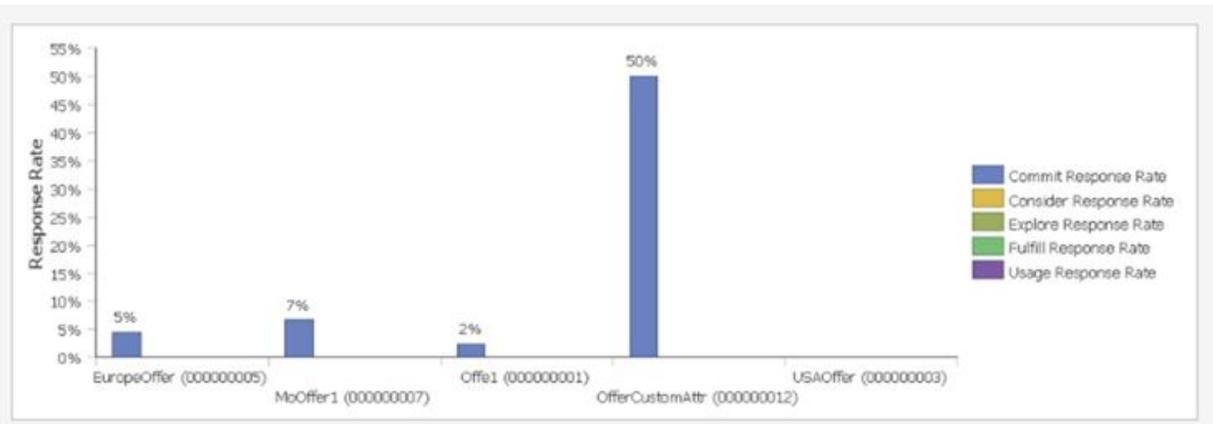
| 項目       | スタイル              |
|----------|-------------------|
| チャート     | 1 pt のライト・グレーの境界線 |
| タイトルとラベル | 10 ポイントの太字フォント    |

さらに、新規チャートを作成する場合は、以下のガイドラインに従って既存のチャート・レポートに一致させてください。

- レポートに複数のチャートがない限り、デフォルトの幅を使用します。単一のレポートに複数のチャートを組み込む場合は、チャート幅を 750px に設定します。
- グラデーションやカラー・パレットを使用するには、「グローバル・レポートのスタイル」のテーブルからストリングをコピーして、XML レポート仕様に貼り付けます。
- 一般的なガイドラインとして、返される予定のデータに基づいてチャート・タイプを選択します。

- レポートが連続的なデータを取得すると保証できる場合にのみ、チャート・タイプとして折れ線グラフを使用してください。
- 複数の系列がある場合は、積み重ね棒グラフは、非積み重ね棒グラフより効果的です。
- ベスト・プラクティスとして、パーセント合計が 100% に等しい場合にのみ、パーセントを使用してください。値が 100% に達していない場合、円グラフではユーザーを混乱させる場合があります。
- チャートにある系列が 2 つだけであり、Y1 軸と Y2 軸の両方を表示する場合には、ベスト・プラクティスとして、色を軸ラベルの最初の 2 つのパレットの色に一致させる必要があります。

以下の例は、グローバル・スタイルを使用するチャートで、追加の書式設定が適用されています。



## 英語バージョンの日付形式

グローバル化されたバージョンの HCL Unica レポート・パッケージを使用する場合は、使用するロケールに応じてチャート・レポートの日付形式が異なります。Unica Insights チャート・レポートは、中程度の長さの日付スタイルを使用します。

以下の表に、英語ロケールでのチャート・レポートの日付形式を示します。

### 英語バージョンの Unica Insights チャート・レポートの日付形式

#### ロケール Unica Insights チャート・レポートの日付形式の例

英語 04/13/2020

## ダッシュボード・レポートのスタイル

ダッシュボード・レポートでは、手動書式設定をいくつか備えたグローバル・スタイルを使用します。

以下のガイドラインに従って、ダッシュボードに表示されるレポートがダッシュボード・ポートレットに適切に収まるようにしてください。

| 項目         | スタイル                                                                                 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 背景色        | 背景色は常にグレー (16 進値 F5F5F5) に設定します。                                                     |
| サイズ        | できる限り、パーセントを使用してサイズを指定します。パーセントのサイズ指定を使用できない場合は、サイズを幅 323 ピクセル、高さ 175 ピクセルに設定してください。 |
| サブタイトル     | 左側にサブタイトルを置きます。                                                                      |
| 日付         | 右側に日付を置きます。                                                                          |
| 凡例         | チャートの下の中央の凡例です。                                                                      |
| 線グラフの線     | 横線のみを表示します。縦線は表示しないでください。                                                            |
| 軸線の色       | 軸線は常に黒に設定します。                                                                        |
| グリッド線の色    | グリッド線は常にグレー (16 進値 c8c8c8) に設定します。                                                   |
| リスト (テーブル) | 最大で 10 行を表示します。                                                                      |

## Unica での新規カスタム・レポートの統合

Unica Insights では、新しく作成したカスタム・レポートをバージョン 12.1.0.3 以降の Campaign、Deliver、Plan、Interact の各製品で Unica と統合できます。

新規カスタム・レポートを作成するには、以下の構成ステップを実行します。

1. BIRT Designer を使用して、開発環境をセットアップします。詳しくは、「<https://www.eclipse.org/birt/documentation/tutorial/>」を参照してください。
2. BIRT Designer を使用してカスタム・レポートを作成し、レポートをテストします。☒
3. カスタム・レポート・フォルダーを作成します。例えば、以下に示すように、Platform インストール・ディレクトリーの下に <My Custom Reports> として作成します。Unica\_home\Platform\Insights\Reports\campaign\partitions\partition1\Affinium Campaign\<My Custom Reports>.

 **注:** カスタム・レポート・フォルダーの下にサブフォルダーを含めないでください。カスタム・レポート・フォルダーには任意の名前を指定できます。複数のカスタム・レポート・フォルダーを指定できます。

4. 上記のディレクトリーにレポート設計ファイルをコピーします。
5. Unica にログインし、以下の構成テンプレートに移動します。
  - Campaign の場合: Affinium|Campaign|partitions|partition1|UnicaInsightsReports|Campaign  移動します。
  - Interact の場合、Affinium|Campaign|partitions|partition1|UnicaInsightsReports|Interact に移動します。
  - Deliver の場合、Affinium|Campaign|partitions|partition1|UnicaInsightsReports|Deliver  移動します。
  - Plan の場合、Affinium|Plan|umoConfiguration|reports に移動します。
6. カスタム・レポート・テンプレートを選択して構成します。以下の詳細を指定します。
  - 新規カテゴリー名: 適切な名前を指定します。
  - reportFolder: カスタム・レポート・フォルダー名を指定します。例: My Custom Reports。
  - reportName: レポート名を指定します。例: Campaign Performance by User
  - reportFileName: レポート設計ファイル名を指定します。例: CampaignPerformancebyUser.rptdesign
  - reportDescription: レポートの説明を指定します。
7. 「分析」メニューに移動し、適切な <製品> の「分析」を選択します。
8. 「フォルダーの同期」をクリックして、「カスタム・レポート・フォルダー」を表示します。
9. 「カスタム・レポート・フォルダー」をクリックして、カスタム・レポートを表示します。
10. 任意のレポートをクリックして実行します。

## 新規 Unica カスタム・レポートのローカライズ

バージョン 12.1.0.3 以降のカスタム・レポートをローカライズできます。Birt は、リソース・プロパティ・ファイルを使用してストリングを翻訳します。これらのファイルは、Unica\_Home/Platform/Insights/Reports/Resources フォルダーにコピーされます。

リソース・プロパティ・ファイルには、ストリングごとにキーがあります。カスタム・レポートでは、レポート設計でレポートのストリングのキーをマップする必要があります。Unica プロパティ・ファイルをストリングに使用できます。これらのストリングは既に翻訳されています。ただし、新しいストリングがある場合は、言語チームから翻訳済みのストリングを入手できます。Birt は、ASCII 形式の翻訳をサポートしています。

いずれの新しいストリングでも、カスタム形式に従って新しいキーを生成する必要があります。Unica キーの形式や数値は使用しないでください。

以下の表に、Campaign および Deliver のリソース・プロパティ・ファイル名を示します。

| 製品名     | Properties file                 |
|---------|---------------------------------|
| キャンペーン  | CAResources_<locale>.properties |
| Deliver | DLResources_<locale>.properties |

Unica は、Campaign レポートおよび Deliver レポートで言語サポートを提供しています。以下の言語をサポートしています。

| 言語        | ロケール          |
|-----------|---------------|
| 英語        | en_us (デフォルト) |
| ドイツ語      | de_de         |
| スペイン語     | es_es         |
| フランス語     | fr_fr         |
| イタリア語     | it_it         |
| 日本語       | ja_jp         |
| 韓国語       | ko_kr         |
| ポルトガル語    | pt_br         |
| ロシア語      | ru_ru         |
| 中国語 (簡体字) | zh_cn         |
| 中国語 (繁体字) | zh_tw         |

Unica\_Home/Platform/Insights/Reports/Resources フォルダに移動すると、すべての \*.properties ファイル名を確認できます。

キーなどを適用する方法については、以下を参照してください。

<https://wiki.eclipse.org/BIRT/FAQ/Internationalization>

## Unica Insights レポートのカスタマイズ

新規レポートを作成し、既存の Unica Insights レポートを変更およびカスタマイズできます。

以下のビデオは、基本的な理解を得るのに役立ちます。開発環境をセットアップして、例を参照しながらレポートをカスタマイズするプロセスを把握できます。各ビデオに関する説明を説明ボックスで確認できます。

- [https://youtu.be/l6Fl8ML\\_rOU](https://youtu.be/l6Fl8ML_rOU)
- <https://youtu.be/gjoAkY-JYhl>
- <https://youtu.be/7xP0wz-8Rn4>
- <https://youtu.be/Kl3Ry-RTZxo>
- <https://youtu.be/s5rW68Fp4Js>

### 既存のすぐに使用できる Unica Insights レポートの変更

ユーザーは、すぐに使用できるレポートを変更して Unica で表示できます。例えば、レポートに新しいビジネス・フィールドが必要な場合、テクニカル・ユーザーはその目的に合わせてレポートを更新できます。レポート設計ファイル名は変更しないでください。

Unica Insights レポート設計ファイルは、Unica Insights Eclipse Designer で開くことができます。このソフトウェアをダウンロードし、資料に従って既存のレポートを変更できます。<https://www.eclipse.org/insights/about/designer.php>。

## Campaign のための既存の Unica Insights レポートのカスタマイズ

以下のセクションでは、Unica Campaign カスタム・オーディエンスおよびカスタム属性に基づいてカスタマイズされた Unica Campaign Unica Insights レポートの生成について詳しく説明します。カスタム・オーディエンスおよび属性については詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

### Unica Campaign カスタム・オーディエンス

Unica Campaign の出荷時には、「Customer」という名前のオーディエンス・レベルのみが設定されています。必要に応じて、追加のオーディエンス・レベルを定義できます。オーディエンス・レベルによって、フローチャートの設計担当者はマーケティング・キャンペーンで「世帯」などの特定のグループをターゲットにすることができます。

Customer (数値) は、デフォルトのオーディエンスで、システムでマーケティング・キャンペーンを実行するために使用できます。他のオーディエンス・タイプでキャンペーンを実行する必要がある場合 (例えば、金融機関が「顧客 ID」ではなく「口座番号」を使用して顧客にコンタクトしたい場合)、キャンペーンを実行するには新しいオーディエンスを「Account」(テキスト)として使用する必要があります。レポートに「Account」オーディエンス・データを表示するには、管理者はレポートに関連 KPI が正しく表示できるように基礎となるテーブルまたはビューを作成する必要があります。

このようなビジネス要件をサポートするには、Unica Campaign 管理者はシステム内にオーディエンス ID とともに新しいオーディエンス・レベルを作成する必要があります。これは、「Campaign 設定」>「オーディエンス・レベルの管理」内に作成できます。このためには、「Customer」オーディエンスの CH/RH テーブルを Campaign DB 内に新規に作成する必要があります。これは、以下の既存の顧客オーディエンス CH/RH テーブルのレプリカにする必要があります。

- ua\_contacthistory
- ua\_dtlcontacthist
- ua\_responsehistory

### テーブル

これらは、テーブルがどのように変更または複製されるかを示したものです。これが完了したら、Unica にレポートを表示するように既存の Unica Insights レポート設計テンプレートを変更する必要があります。このセクションの後の「ACCOUNT オーディエンス用のビューの生成」を参照してください。

- これらのテーブルは、「Customer」オーディエンス・テーブルのレプリカであり、「CUSTOMERID」列を新しいオーディエンス・フィールド (例えば、「ACCOUNTNO」) に置き換えて作成したものです。以下に、サンプルのスクリプトを示します。

```

create table UA_DTLCONTACTHIST_ACNO
(
  ACCOUNTNO   VARCHAR2(20) not null,
  TREATMENTINSTID NUMBER(19) not null,
  CONTACTSTATUSID NUMBER(19),
  CONTACTDATETIME TIMESTAMP(6),
  UPDATEDATETIME TIMESTAMP(6),
  USERDEFINEDFIELDS CHAR(18),
  DATEID      NUMBER(19) not null,
  TIMEID      NUMBER(19) not null,
  VALUEBEFORE NUMBER(19,2),
  USAGEBEFORE NUMBER(19,2)
);

create table UA_CONTACTHISTORY_ACNO
(
  ACCOUNTNO   VARCHAR2(20) not null,
  CELLID      NUMBER(19) not null,
  PACKAGEID   NUMBER(19) not null,
  CONTACTDATETIME TIMESTAMP(6),
  UPDATEDATETIME TIMESTAMP(6),
  CONTACTSTATUSID NUMBER(19),
  DATEID      NUMBER(19),
  TIMEID      NUMBER(19),
  USERDEFINEDFIELDS CHAR(18),
  VALUEBEFORE NUMBER(19,2),
  USAGEBEFORE NUMBER(19,2)
);

create table UA_RESPONSEHISTORY_ACNO
(
  ACCOUNTNO   VARCHAR2(20) not null,
  TREATMENTINSTID NUMBER(19) not null,
  RESPONSEPACKID NUMBER(19) not null,
  RESPONSEDATETIME TIMESTAMP(6) not null,
  WITHINDATERANGEFLG NUMBER(10),
  ORIGCONTACTEDFLG NUMBER(10),
  BESTATTRIB  NUMBER(10),
  FRACTIONALATTRIB FLOAT,
  DIRECTRESPONSE NUMBER(10),
  CUSTOMATTRIB  FLOAT,
  RESPONSETYPEID NUMBER(19),
  DATEID      NUMBER(19),
  TIMEID      NUMBER(19),
  USERDEFINEDFIELDS CHAR(18),
  VALUEAFTER  NUMBER(19,2),
  USAGEAFTER  NUMBER(19,2),
  RESPONSEREVENUE NUMBER(19,2),
  SALESCOST   NUMBER(19,2),
  RESPONSECHANNEL VARCHAR2(16)
);

```

## レポート・スキーマの理解

Unica Campaign レポートは、事前集約ビューで機能します。これらのビューは、レポート SQL ジェネレーターの機能を使用して作成され、Platform 設定で確認できます。この機能にはレポート・スキーマがあり、各レポート・スキーマは複数の事前集約ビューに関連付けられています。

以下に、関連付けられたビューのサマリーとともに、すべてのレポート・スキーマのリストを示します。Platform 構成で使用可能なテンプレート名も、スキーマごとに示します。

- Campaign ビュー - キャンペーン、オファー、セル、時間に基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細
- キャンペーン・カスタム属性 - キャンペーン/オファー/セルのカスタム属性に基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細 - キャンペーン、オファー・レスポンスに基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細 - キャンペーン、オファーのコンタクトに基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細
- キャンペーン・パフォーマンス - キャンペーン・パフォーマンスのさまざまな分析に基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
  - キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細
- オファー・パフォーマンス - オファー・パフォーマンスのさまざまな分析に基づくサマリー・ビュー
  - キャンペーン・カスタム属性
  - キャンペーン・パフォーマンス・スター・スキーマ
  - オファー・パフォーマンス・スター・スキーマ

- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細スター・スキーマ
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細

## カテゴリー

キャンペーン・ビュー

## SQL 構成

キャンペーン・ビュー

オファー・ビュー

セル・ビュー

オファーするキャンペーンのビュー

カレンダー・ビュー

時間ビュー

キャンペーン・カスタム属性

キャンペーン・カスタム属性ビュー

オファー・カスタム属性ビュー

セル・カスタム属性ビュー

キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細

キャンペーンのレスポンスの詳細

キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細

キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細

キャンペーン・コンタクト・ステータスのコンタクト履歴

キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスのコンタクト履歴

キャンペーン・パフォーマンス

キャンペーンのコンタクト履歴

キャンペーン・セルのコンタクト履歴

キャンペーン・オファーのコンタクト履歴

キャンペーン・オファー・セルのコンタクト履歴

キャンペーン・セル・オファーのコンタクト履歴

キャンペーンのレスポンス履歴

キャンペーン・オファーのレスポンス履歴

キャンペーン・セルのレスポンス履歴

キャンペーン・オファー・セルのレスポンス履歴

キャンペーン・セル・オファーのレスポンス履歴

キャンペーンのコンタクト履歴サマリー

キャンペーン・セルのコンタクト履歴サマリー

キャンペーン・オファーのコンタクト履歴サマリー

キャンペーン・オファー・セルのコンタクト履歴サマリー

オファー・パフォーマンス

キャンペーン・セル・オファーのコンタクト履歴サマリー  
キャンペーンのレスポンス履歴サマリー  
キャンペーン・オファーのレスポンス履歴サマリー  
キャンペーン・セルのレスポンス履歴サマリー  
キャンペーン・オファー・セルのレスポンス履歴サマリー  
キャンペーン・セル・オファーのレスポンス履歴サマリー  
オファーのコンタクト履歴  
オファーのレスポンス履歴  
オファー・キャンペーンのコンタクト履歴  
オファー・キャンペーンのレスポンス履歴  
オファー・キャンペーン・セルのコンタクト履歴  
オファー・キャンペーン・セルのレスポンス履歴  
オファーのコンタクト履歴サマリー  
オファーのレスポンス履歴サマリー  
オファー・キャンペーンのコンタクト履歴サマリー  
オファー・キャンペーンのレスポンス履歴サマリー  
オファー・キャンペーン・セルのコンタクト履歴サマリー  
オファー・キャンペーン・セルのレスポンス履歴サマリー  
オファー・パフォーマンス・メトリック・サマリー

**Campaign** インストーラーは、「Customer」オーディエンスのレポート・ビューを登録します。また、レポート・ビューのテンプレートも登録します。テンプレートは、新規オーディエンスのレポート・ビューを生成するために使用します。

**カスタム・オーディエンスのレポート・スキーマの作成**

ACCOUNT オーディエンスのレポート・スキーマを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 5つのキャンペーン・レポート・スキーマ・テンプレートからテンプレートを選択します。テンプレートでは、SQLの定義にCH/RHテーブルを使用します。
2. 新規カテゴリ名を入力し、その対応するコンタクト履歴テーブルとレスポンス履歴テーブルを設定します。さらに、関連するすべてのカテゴリに対するオーディエンス・キー(列名)を指定します。管理者は、必要に応じて時間レベルのグループ化を追加することもできます。時間レベルのグループ化ごとに新しいビュー定義が追加されます。

- a. キャンペーン・ビューとキャンペーン・カスタム属性のカテゴリーは、オーディエンスに依存しないため、どのカスタム・オーディエンスでも同じものになります。
  - b. キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細、キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの詳細、キャンペーン・パフォーマンス、オファー・パフォーマンスの各カテゴリーには、列がありません。いずれのカスタム・オーディエンス・カテゴリーでも、デフォルトの「Customer」オーディエンスに対して使用できるまったく同じ列を作成する必要があります。
3. すべてのテンプレートに対して上記のステップを繰り返します。すべての新規カテゴリーがキャンペーンの下にリストされます。
  4. 各 ACNO カテゴリーを選択し、「SQL 構成」で対応するビュー名に応じて各 ACNO カテゴリーを構成します。これらのビュー名は、「Customer」オーディエンスのビュー名に一意である必要があります。ビュー名には、下線で終わるもの (UARC\_OCH\_) と、下線なしで終わるもの (UARC\_CRBO\_ACNO) の 2 種類があります。前者は、UARC\_OCH\_ACNO\_DY や UARC\_OCH\_MO など、さまざまな時間レベルのビューを作成するために使用します。

各 ACNO カテゴリーを選択し、「Columns」の下の列テンプレートを使用して、それぞれの業績評価指標 (KPI) に応じて各 ACNO カテゴリーを構成します。管理者は、すべての KPI が「Customer」オーディエンスによって作成されていることを確認する必要があります。

KPI メトリック・テンプレートには、コンタクトとレスポンスの 2 つのタイプがあります。コンタクト・メトリックはコンタクト履歴テーブル列から定義され、レスポンス・メトリックはレスポンス履歴テーブル列から定義されません。

#### 「ACCOUNT」オーディエンスのビューの生成

「ACCOUNT」オーディエンスのビューを生成するには、以下の手順を実行します。

1. 「設定」>「レポート SQL ジェネレーター」オプションに移動します。すべてのスキーマが、製品「Campaign」の下にリストされます。
2. すべての ACNO カテゴリーを選択し、ビューを生成します。
3. スクリプトを保存します。

#### 「Customer」オーディエンスと「ACCOUNT」オーディエンスのビューのマージ

「Customer」オーディエンスと「ACCOUNT」オーディエンスのビューをマージするには、以下の手順を実行します。

1. 両方のオーディエンスの各ビューで「union all」アクションを実行します。UARC\_COCH\_MO と UARC\_CORH\_MO の例を示します。Unica Campaign には、オーディエンス依存のビューが 37 個あります。管理者は、そのすべてについてこの手順に従う必要があります。

```
CREATE OR REPLACE VIEW UARC_COCH_MO AS
(
  ((SELECT DISTINCT
    UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,
    UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
    UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
    count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS,
    count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS_CG,
```

```

count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 0 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as NUM_OFF_VERS,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 1 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as
NUM_OFF_VERS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 and UA_ContactStatus.CountsAsContact=1 THEN
UA_ContactHistory_ACNO.ACNO END)) as UNIQUE_RECIPIENTS,
count(distinct (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ContactHistory_ACNO.ACNO END)) as
UNIQUE_RECIP_CG FROM
UA_ContactStatus,
UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_ContactHistory_ACNO
ON
UA_Treatment.PackageID = UA_ContactHistory_ACNO.PackageID
WHERE
UA_ContactHistory_ACNO.CellID = UA_Treatment.CellID
AND
UA_ContactHistory_ACNO.ContactStatusID = UA_ContactStatus.ContactStatusID
AND
UA_ContactHistory_ACNO.DateID = UA_Calendar.DateID
AND
UA_Treatment.HasDetailHistory = 0 GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,
UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year ) UNION ALL ( SELECT DISTINCT
UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,
UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS_CG,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 0 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as NUM_OFF_VERS,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 1 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as
NUM_OFF_VERS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 and UA_ContactStatus.CountsAsContact=1 THEN
UA_DtlContactHist_ACNO.ACNO END)) as UNIQUE_RECIPIENTS,
count(distinct (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_DtlContactHist_ACNO.ACNO END)) as
UNIQUE_RECIP_CG FROM
UA_ContactStatus,
UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_DtlContactHist_ACNO
ON
UA_Treatment.TreatmentInstID = UA_DtlContactHist_ACNO.TreatmentInstID
WHERE
UA_DtlContactHist_ACNO.ContactStatusID = UA_ContactStatus.ContactStatusID
AND
UA_DtlContactHist_ACNO.DateID = UA_Calendar.DateID
AND
UA_Treatment.HasDetailHistory = 1 GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,
UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year ))
UNION ALL
(( SELECT DISTINCT
UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,
UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS_CG,

```

```

count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 0 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as NUM_OFF_VERS,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 1 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as
NUM_OFF_VERS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 and UA_ContactStatus.CountsAsContact=1 THEN
UA_ContactHistory.CustomerID END)) as UNIQUE_RECIPIENTS,
count(distinct (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ContactHistory.CustomerID END)) as
UNIQUE_RECIP_CG FROM
UA_ContactStatus,
UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_ContactHistory
ON
UA_Treatment.PackageID = UA_ContactHistory.PackageID
WHERE
UA_ContactHistory.CellID = UA_Treatment.CellID
AND
UA_ContactHistory.ContactStatusID = UA_ContactStatus.ContactStatusID
AND
UA_ContactHistory.DateID = UA_Calendar.DateID
AND
UA_Treatment.HasDetailHistory = 0 GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,
UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year ) UNION ALL ( SELECT DISTINCT
UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,
UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_Treatment.TreatmentSize END) as NUM_OF_OFFERS_CG,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 0 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as NUM_OFF_VERS,
count (distinct (case UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag when 1 then UA_Treatment.OfferHistoryID END)) as
NUM_OFF_VERS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 and UA_ContactStatus.CountsAsContact=1 THEN
UA_DtlContactHist.CustomerID END)) as UNIQUE_RECIPIENTS,
count(distinct (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_DtlContactHist.CustomerID END)) as
UNIQUE_RECIP_CG FROM
UA_ContactStatus,
UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_DtlContactHist
ON
UA_Treatment.TreatmentInstID = UA_DtlContactHist.TreatmentInstID
WHERE
UA_DtlContactHist.ContactStatusID = UA_ContactStatus.ContactStatusID
AND
UA_DtlContactHist.DateID = UA_Calendar.DateID
AND
UA_Treatment.HasDetailHistory = 1 GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,
UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year ))
);

CREATE OR REPLACE VIEW UARC_CORH_MO AS
(
(SELECT DISTINCT
UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,

```

```

UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
count (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.BestAttrib END) as RESP_TRANS,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.BestAttrib END) as RESP_TRANS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.ACNO END)) as
UNIQUE_RESPONDERS,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.ACNO END)) as
UNIQUE_RESP_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_ResponseHistory_ACNO.OrigContactedFlg = 0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag= 0 THEN
UA_ResponseHistory_ACNO.ACNO END)) as NOT_CONT_RESP,
count (CASE WHEN UA_ResponseHistory_ACNO.WithinDateRangeFlg=0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag=0 THEN
UA_ResponseHistory_ACNO.BestAttrib END) as RESP_AFTER_EXP,
count (CASE WHEN UA_ResponseHistory_ACNO.WithinDateRangeFlg=0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag=1 THEN
UA_ResponseHistory_ACNO.BestAttrib END) as RESP_AFTER_EXP_CG, AVG(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag
WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.ResponseRevenue END) AS REVENUE_PER_RESP, SUM(CASE
UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.ResponseRevenue END) AS GROSS_REVENUE,
AVG(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ResponseHistory_ACNO.ResponseRevenue
END) AS REV_PER_RESP_CG, SUM(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN
UA_ResponseHistory_ACNO.ResponseRevenue END) AS GROSS_REVENUE_CG FROM
UA_UsrResponseType,
UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_ResponseHistory_ACNO
ON
UA_Treatment.TreatmentInstID = UA_ResponseHistory_ACNO.TreatmentInstID
WHERE
UA_ResponseHistory_ACNO.ResponseTypeID = UA_UsrResponseType.ResponseTypeID
AND
UA_UsrResponseType.CountsAsResponse = 1
AND
UA_ResponseHistory_ACNO.BestAttrib = 1
AND
UA_ResponseHistory_ACNO.DateID = UA_Calendar.DateID GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year)
Union All
(SELECT DISTINCT
UA_Treatment.CampaignID AS CAMPAIGNID,
UA_Treatment.OfferID AS OFFERID,
UA_Calendar.Month AS MONTH, UA_Calendar.Year AS YEAR,
count (CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory.BestAttrib END) as RESP_TRANS,
count(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ResponseHistory.BestAttrib END) as RESP_TRANS_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 0 THEN UA_ResponseHistory.CustomerID END)) as
UNIQUE_RESPONDERS,
count(distinct (CASE WHEN UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag = 1 THEN UA_ResponseHistory.CustomerID END)) as
UNIQUE_RESP_CG,
count(distinct (CASE WHEN UA_ResponseHistory.OrigContactedFlg = 0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag= 0 THEN
UA_ResponseHistory.CustomerID END)) as NOT_CONT_RESP,
count (CASE WHEN UA_ResponseHistory.WithinDateRangeFlg=0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag=0 THEN
UA_ResponseHistory.BestAttrib END) as RESP_AFTER_EXP,
count (CASE WHEN UA_ResponseHistory.WithinDateRangeFlg=0 AND UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag=1 THEN
UA_ResponseHistory.BestAttrib END) as RESP_AFTER_EXP_CG, AVG(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag
WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory.ResponseRevenue END) AS REVENUE_PER_RESP, AVG(CASE
UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ResponseHistory.ResponseRevenue END) AS REV_PER_RESP_CG,
SUM(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 0 THEN UA_ResponseHistory.ResponseRevenue END) AS
GROSS_REVENUE, SUM(CASE UA_Treatment.CntrlTreatmtFlag WHEN 1 THEN UA_ResponseHistory.ResponseRevenue END)
AS GROSS_REVENUE_CG FROM
UA_UsrResponseType,

```

```

UA_Calendar,
UA_Treatment
LEFT OUTER JOIN
UA_ResponseHistory
ON
UA_Treatment.TreatmentInstID = UA_ResponseHistory.TreatmentInstID
WHERE
UA_ResponseHistory.ResponseTypeID = UA_UsrResponseType.ResponseTypeID
AND
UA_UsrResponseType.CountsAsResponse = 1
AND
UA_ResponseHistory.BestAttrib = 1
AND
UA_ResponseHistory.DateID = UA_Calendar.DateID GROUP BY
UA_Treatment.CampaignID,UA_Treatment.OfferID, UA_Calendar.Month, UA_Calendar.Year)
);

```

### 注:

- ビュー名は、システムによって「Customer」オーディエンスに対して定義されたものと同じ名前にします。
- 上記の手順を使用すると、サマリー・ビューにオーディエンス・データを設定でき、マーケティング担当者が同じレポートとモデルを使用してすぐに使用可能なレポートを表示できるようになります。

## カスタム属性

キャンペーンをカスタマイズするには、各キャンペーンについてのメタデータを保管するカスタム・キャンペーン属性を追加します。

### 始める前に:

カスタム属性を作成します。詳しくは、「Campaign 管理ガイド」を参照してください。

カスタム属性用に Unica Campaign レポートを構成するには、以下の手順を実行します。

### テキスト・カスタム属性

テキスト・カスタム属性をスキーマおよびビューに含めるには、以下の手順を実行します。

### 注: テキスト属性は Campaign 属性に属していると想定されています。

1. 以下の照会を使用して、AttributeID キャンペーン・システム・データベースを取得します。

```
select AttributeID,Name,DisplayName from UA_AttributeDef where DisplayName = <>
```

2. 「設定」 > 「構成」 > 「レポート」 > 「スキーマ」 > 「キャンペーン」 > 「キャンペーン・カスタム属性」に移動します。
3. テンプレート (Campaign custom column) をクリックし、以下のエントリーの情報を指定します。
  - **新規カテゴリー名**
  - オファー・カスタム属性名としての**列名**。
  - 上記の照会からの**属性 ID**。
  - NumberValue としての**値タイプ**。
4. 「変更を保存」をクリックします。

## 数値カスタム属性

数値カスタム属性をスキーマおよびビューに含めるには、以下の手順を実行します。

 **注:** このため、数値属性はオファー属性に属していると想定されています。

1. 以下の照会を使用して、AttributeID キャンペーン・システム・データベースを取得します。

```
select AttributeID,Name,DisplayName from UA_AttributeDef where DisplayName = <>
```

2. 「設定」 > 「構成」 > 「レポート」 > 「スキーマ」 > 「キャンペーン」 > 「キャンペーン・カスタム属性」に移動します。
3. Offer custom column テンプレートをクリックし、以下の情報を指定します。
  - 新しいカテゴリー名。
  - オファー・カスタム属性名としての列名。
  - 上記の照会からの属性 ID。
  - NumberValue としての値タイプ。
4. 数値属性をレポート・ビューに KPI として含めるには、スキーマに移動します。例:  
「設定」 > 「構成」 > 「レポート」 > 「スキーマ」 > 「キャンペーン・パフォーマンス」。
5. 数値属性がコンタクトに関連している場合は列テンプレート Contact metric を選択し、数値属性がレスポンスに属している場合はレスポンス・メトリックを選択します。以下の情報を入力します。
  - 新しいカテゴリー名。
  - オファー・カスタム属性名としての列名。
  - Count/Count Distinct/Min/Max/Avg リストからの関数。
  - 列名
  - 制御処理フラグでは、デフォルト値は 0 で、KPI がコントロール・セルに適用可能な場合には 1 です。
6. 「変更を保存」をクリックします。

ビジネス・レポート要件の他のレポート・スキーマにもカスタム属性が関連している場合は、スキーマごとにステップ 4 と 5 を繰り返します。KPI がすべてのレポート・スキーマに該当する必要はありません。この点について詳しくは、この資料の『レポート・スキーマの理解』セクションを参照してください。

## SQL ジェネレーターの実行によるカスタム・オーディエンス・ビューおよびカスタム属性ビューの生成

上記のカスタム属性を使用してビューを生成するには、以下の手順を実行します。

1. 「スキーマ」リストから「設定」 > 「レポート SQL ジェネレーター」 > 「新規スキーマ名の更新または作成」に移動します。
2. DB タイプを選択します。
3. ビューをダウンロードします。

ダウンロード SQL スクリプトは、Campaign システム・データベースで実行する必要があります。システムにビューが既に存在する場合は、ビューを削除して再作成する必要があります。

## 複合オーディエンス・レポート・ビュー

複合オーディエンスの場合にも、レポート・ビューを作成できます。この場合、一意のターゲット顧客を識別するために2つのフィールドが結合されます。レポート・ビューを作成するには、どちらのオーディエンス・フィールドも設定した共通のCH/RH テーブル・セットを1つ作成する必要があります。すべての列をテンプレート構成の「オーディエンス・キー」フィールドにコンマで区切って取り込む必要があります。

## Interact のための既存の Unica Insights レポートのカスタマイズ

以下のセクションでは、Unica Interact カスタム・オーディエンスに基づいてカスタマイズされた Unica Interact Unica Insights レポートの生成について詳しく説明します。カスタム・オーディエンスおよび属性については、「Unica Interact 管理者ガイド」を参照してください。

### Unica Interact カスタム・オーディエンス

Unica Interact の出荷時には、「Customer」という名前のオーディエンス・レベルのみが設定されています。必要に応じて、追加のオーディエンス・レベルを定義できます。オーディエンス・レベルによって、フローチャートの設計担当者は「世帯」などの特定のグループをターゲットにすることができます。

Customer (数値) は、デフォルトのオーディエンスであり、Marketing Interact でオファーを配信するためにシステムで使用できます。他のオーディエンス・タイプにオファーを配信する必要がある場合 (例えば、金融機関が「顧客ID」ではなく「口座番号」を使用して顧客にコンタクトしたい場合)、Interact を実行するには新しいオーディエンスを「Account」(テキスト)として使用する必要があります。レポートに「Account」オーディエンス・データを表示するには、管理者はレポートに関連 KPI が正しく表示できるように基礎となるテーブルまたはビューを変更する必要があります。

このようなビジネス要件をサポートするには、Unica Interact 管理者はシステム内に新しいオーディエンスを作成する必要があります。このためには、「Customer」オーディエンスのCH/RH テーブルを変更するか、以下の顧客オーディエンス CH/RH テーブルのレプリカとなる新規のCH/RH テーブルを作成する必要があります。

- ua\_contacthistory
- ua\_dtlcontacthist
- ua\_responsehistory

### テーブル

以下のCH/RH テーブルは、Campaign システム・データベースに作成する必要があります。詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

- これらのテーブルは、「Customer」オーディエンス・テーブルのレプリカであり、「CUSTOMERID」列を新しいオーディエンス・フィールド (例えば、「ACCOUNTNO」) に置き換えて作成したものです。以下に、サンプルのスキプトを示します。

```
CREATE TABLE [dbo].[ACCT_UA_DtlContactHist](
[AccountID] [varchar](512) NOT NULL,
[TreatmentInstID] [bigint] NOT NULL,
[ContactStatusID] [bigint] NULL,
[ContactDateTime] [datetime] NULL,
[UpdateDateTime] [datetime] NULL,
[UserDefinedFields] [nvarchar](18) NULL,
```

```

[DateID] [bigint] NOT NULL,
[TimeID] [bigint] NOT NULL,
[RTSelectionMethod] [int] NULL,
[RTLerningMode] [int] NULL,
[RTLerningModelID] [bigint] NULL ) ON [PRIMARY]
CREATE INDEX ACCT_cDtIContHist_IX1 ON ACCT_UA_DtIContactHist
(AccountID,TreatmentInstID);
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_DtIContactHist] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_DCH_FK3] FOREIGN KEY([TimeID]) REFERENCES
[dbo].[UA_Time] ([TimeID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_DtIContactHist] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_DtICH_FK1] FOREIGN KEY([ContactStatusID])
REFERENCES [dbo].[UA_ContactStatus] ([ContactStatusID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_DtIContactHist] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_DtICH_FK2] FOREIGN KEY([DateID])
REFERENCES [dbo].[UA_Calendar] ([DateID])
alter table ACCT_UA_DtIContactHist add RTSelectionMethod int;

CREATE TABLE [dbo].[ACCT_UA_ContactHistory](
[AccountID] [varchar](512) NOT NULL,
[CellID] [bigint] NOT NULL,
[PackageID] [bigint] NOT NULL,
[ContactDateTime] [datetime] NULL,
[UpdateDateTime] [datetime] NULL,
[ContactStatusID] [bigint] NULL,
[DateID] [bigint] NULL,
[TimeID] [bigint] NULL,
[UserDefinedFields] [nchar](18) NULL,
CONSTRAINT [ACCT_CHist_PK] PRIMARY KEY CLUSTERED
([AccountID] ASC,[CellID] ASC,[PackageID] ASC)
CREATE INDEX ACCT_cContactHist_IX1 ON ACCT_UA_ContactHistory(CellID);
CREATE INDEX ACCT_cContactHist_IX2 ON ACCT_UA_ContactHistory(PackageID,CellID);
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ContactHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_CHist_FK1] FOREIGN KEY([ContactStatusID])
REFERENCES [dbo].[UA_ContactStatus] ([ContactStatusID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ContactHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_CHist_FK2] FOREIGN KEY([DateID])
REFERENCES [dbo].[UA_Calendar] ([DateID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ContactHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_CHist_FK3] FOREIGN KEY([TimeID])
REFERENCES [dbo].[UA_Time] ([TimeID])

CREATE TABLE [dbo].[ACCT_UA_ResponseHistory](
[AccountID] [varchar](512) NOT NULL,
[TreatmentInstID] [bigint] NOT NULL,
[ResponsePackID] [bigint] NOT NULL,
[ResponseDateTime] [datetime] NOT NULL,
[WithinDateRangeFlg] [int] NULL,
[OrigContactedFlg] [int] NULL,
[BestAttrib] [int] NULL,
[FractionalAttrib] [float] NULL,
[DirectResponse] [int] NULL,
[CustomAttrib] [float] NULL,
[ResponseTypeID] [bigint] NULL,
[DateID] [bigint] NULL,
[TimeID] [bigint] NULL,
[UserDefinedFields] [nchar](18) NULL,
[RTSelectionMethod] [int] NULL,
[RTLerningMode] [int] NULL,
[RTLerningModelID] [bigint] NULL,
CONSTRAINT [ACCT_RHistry_PK] PRIMARY KEY CLUSTERED

```

```

([AccountID] ASC,[TreatmentInstID] ASC,[ResponsePackID] ASC)
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ResponseHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_RHHistory_FK1] FOREIGN
KEY([TreatmentInstID])
REFERENCES [dbo].[UA_Treatment] ([TreatmentInstID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ResponseHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_RHHistory_FK2] FOREIGN KEY([TimeID])
REFERENCES [dbo].[UA_Time] ([TimeID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ResponseHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_RHHistory_FK3] FOREIGN
KEY([ResponseTypeID])
REFERENCES [dbo].[UA_UsrResponseType] ([ResponseTypeID])
ALTER TABLE [dbo].[ACCT_UA_ResponseHistory] WITH CHECK ADD CONSTRAINT [ACCT_RHHistory_FK4] FOREIGN KEY([DateID])
REFERENCES [dbo].[UA_Calendar] ([DateID])
alter table ACCT_UA_ResponseHistory add RTSelectionMethod int;

```

## レポート・スキーマの理解

Unica Interact レポートは、事前集約ビューで機能します。これらのビューは、レポート SQL ジェネレーターの機能を使用して作成されます。この機能にはレポート・スキーマがあり、各レポート・スキーマは複数の事前集約ビューの「n」という数値に関連付けられています。

ビューの詳細は、『データ・ソース別の SQL スクリプト』セクションで説明しています。

Interact インストーラーは、「Customer」オーディエンスのレポート・ビューを登録します。また、レポート・ビューのテンプレートも登録します。テンプレートは、新規オーディエンスのレポート・ビューを生成するために使用します。

ACCOUNT オーディエンスのレポート・スキーマを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 対話実績スキーマを作成するには、「対話実績スター・スキーマ」を使用します。以下のサブステップを実行して、対話実績スキーマを作成します。
  - a. 「設定」 > 「構成」を選択し、「レポート」 > 「スキーマ」 > 「対話」 > 「対話実績スター・スキーマ」を展開します。
  - b. 「新規カテゴリー名」フィールドで、オーディエンス・レベルを示すレポート・スキーマの記述名を入力します。例えば、対話パフォーマンス世帯と指定します。
  - c. 「入力テーブル」セクションで、オーディエンス・レベルとオーディエンス・キーをサポートするテーブルを確認します。
  - d. 「スキーマ設定」セクションで、適合する「時間経過に伴う変動」オプションをすべて選択してから、「変更を保存」をクリックします。スキーマの構成ツリーに新規ノードが表示されます。ノードの名前は変更できません。

残りのビュー（つまり、配置履歴、対話ランタイム・ビュー、および対話学習ビュー）は、オーディエンスに依存しないため、どのカスタム・オーディエンスでも同じものになります。

## 「ACCOUNT」オーディエンスのビューの生成

「ACCOUNT」オーディエンスのビューを生成するには、以下の手順を実行します。

1. 「設定」 > 「レポート SQL ジェネレーター」に移動します。すべてのスキーマが、製品「Interact」の下にリストされます。
2. すべてのACNO カテゴリーを選択し、ビューを生成します。
3. スクリプトを保存し、それぞれのデータ・ソースにインポートします。

## 複合オーディエンス・レベルの場合

「Customer」オーディエンスと「ACCOUNT」オーディエンスのビューのマージ

「Customer」オーディエンスと「ACCOUNT」オーディエンスのビューをマージするには、以下の手順を実行します。管理者は、上で説明したように、「Customer」オーディエンスと「ACCOUNT」オーディエンスのビューをマージする必要があります。

1. 両方のオーディエンス・レベルについて、対話実績の各ビューで「union all」アクションを実行します。
2. ビュー名は、システムによって「Customer」オーディエンスに対して定義されたものと同じ名前にします。

上記の手順を使用すると、サマリー・ビューに両方のオーディエンス・データを設定でき、マーケティング担当者が同じレポートとモデルを使用してすぐに使用可能なすべてのレポートを表示できるようになります。

 **注:** カスタム・オーディエンス・レベルで Interact レポート「Zone\_Performance\_By\_Offer」を実行するには、オーディエンス固有のビューを保持している必要があります。これを実行するには、以下の手順を実行します。

例えば、「ACCOUNT」オーディエンス・レベルを使用するとします。

1. Campaign データベースから以下のビューを削除します。
  - UARI\_ZONEPERF\_PRES\_REJ
  - UARI\_ZONEPERF\_MASTER
2. Interact のインストール場所 <INTERACT\_HOME>/reports/ddl/<db type folder>/InteractDT.sql からファイルを開きます。
3. 上記のビュー内の以下のテーブルの名前を、上記で作成したテーブルに従ってオーディエンス固有の名前に変更します。ファイルを保存して、データベースにインポートします。
  - UA\_ResponseHistory > ACCT\_UA\_ResponseHistory
  - UA\_DtlContactHist > ACCT\_UA\_DtlContactHist

 **注:** Weblogic アプリケーション・サーバーを使用している場合に、グラフを含むレポートがページにロードされないときは、アプリケーション・サーバー・キャッシュをクリーンアップして再始動してみてください。

## 既知の問題

| ID         | 問題                                                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| HMA-307152 | レポート列の数が多い場合、PDF 出力が縮小する場合があります。このような場合には、書式設定をカスタマイズできるため、XLSX 形式を使用すると効果的です。                 |
| HMA-305352 | プロジェクト名に \$ 文字を使用すると、Unica Insights レポートにエラーが生成されます。                                           |
| HMA-303387 | レポート構成で例外が生成された場合、例外は Unica Insights エンジンによって表示されます。これは、エラーの理解に役立ちます。                          |
| HMA-302526 | IBM Cognos レポートとは異なり、一部の Unica Insights レポートには、Campaign、Plan、対話式チャネルの各オブジェクトのハイパーリンクが含まれていません。 |

HMA-305517 すべての Unica Insights オブジェクト固有のレポートでは、オブジェクト名が表示される場合があります (例えば、Campaign/Offer/Plan/Program/Project ドロップダウン・フィルターが無効になっています)。

HMA-310915 「What If オファー収支サマリー」レポートは、MariaDB データ・ソース搭載の Campaign では使用できません。

HMA-313086 Insights レポートにイメージが記載されている場合、必要な権限がないと開きません。  
回避策: 次のステップを実行します。

1. <INSIGHTS\_HOME>/report に移動します。
2. 以下のコマンド `chmod -R 766 images` を実行して、**images** フォルダの許可を変更してください。
3. アプリケーション・サーバーが既に稼働している場合には再始動します。

HMA-313087 Insights ツールでは、ファイルを実行する権限を使用できません。  
回避策: 次のステップを実行します。

1. <INSIGHTS\_HOME>/tools/bin に移動します。
2. 以下のコマンド `chmod -R 777` を使用して、ファイルのアクセス権限を変更してください。

HMA-320542 拡張パターンをサポートするようにイベント・パターン状態 ETL を更新します。  
(V12.1.0.3)

- ・パターン状態 ETL プロセスは、現在、イベント・パターンが「すべて一致」、「カウンター」、および「重みづけカウンター」の対話式チャンネルでのみ機能します。
- ・新しい拡張イベント・パターンを表示するように、すべてのデータベースのイベント・パターン・レポートを修正する必要があります。

HMA-320581 プロジェクト・パフォーマンス・サマリー (カスタム) レポート: 生成された合計リード (ターゲット、差異、および実績) の集約値が通貨で表示されます。  
(V12.1.0.3)

HMA-320279 承認およびコンプライアンスのリスト: 承認が承認され、再送信される場合、その項目に対する承認ステータスは更新されません。  
(V12.1.0.3)

HMA-320280 「承認およびコンプライアンスのリスト」レポート: レポートの再送信時に、すべての承認項目がレポートに表示されるわけではありません。  
(V12.1.0.3)

HMA-320351 マネージャー承認サマリー・レポート: 今日のタスクの数が正しくありません。  
(V12.1.0.3)

HMA-320352 自分の承認サマリー・レポート: 今日のタスク/承認の数が正しくありません。  
(V12.1.0.3)

HMA-320579 プロジェクト正常性月次レポート: フィルターでプロジェクトが1つも選択されず、値 none がレポートによってキャストされている場合、基礎となるすべてのプロジェクトが表示されます。  
(V12.1.0.3)

HMA-320578 プロジェクト・タイプ別予測レポート: 予算金額は表示されますが、予測金額が表示されません。  
(V12.1.0.3)

- HMA-320353 マネージャー・タスク・サマリー・レポート: 今日のタスク/承認の数が正しくありません。  
(V12.1.0.3)
- HMA-320354 自分のタスク・サマリー・レポート: 今日のタスク/承認の数が正しくありません。  
(V12.1.0.3)
- HMA-320169 プロジェクトのオンタイム分析レポート: プロジェクト名がドリルダウン・レポートに 2 回表示  
(V12.1.0.3) されます。
- HMA-320356 四半期別の計画予算サマリー: 将来の年度を指定して会計年度を選択し、レポートを実行する  
(V12.1.0.3) と、レポートは正しい値で正常に生成されますが、年フィルターは現在の年度にリセットされま  
す。
- HMA-320357 要求されたプロジェクトと完了したプロジェクト: ジョブの完了とジョブの要求というラベル  
(V12.1.0.3) を、プロジェクトの完了時とジョブの要求時にそれぞれ表示できます。
- HMA-320221 四半期別のプログラム予算サマリー: 将来の年度を指定して会計年度を選択し、レポートを実行  
(V12.1.0.3) すると、レポートは正しい値で正常に生成されますが、年フィルターは現在の年度にリセットさ  
れます。
- HMA-320226 四半期別のプロジェクト予算サマリー: 将来の年度を指定して会計年度を選択し、レポートを実  
(V12.1.0.3) 行すると、レポートは正しい値で正常に生成されますが、年フィルターは現在の年度にリセット  
されます。
- HMA-320086 要求されたプロジェクトと完了したプロジェクト: プロジェクトの数が、要求されたプロジェク  
(V12.1.0.3) トと正しく一致しません。
- HMA-320227 詳細な経費内訳レポート: ベンダー名などのフィールドがレポートに正しく表示されません。  
(V12.1.0.3)
- HMA-320168 プロジェクト正常性 (傾向): テーブルに列が重複して表示されます。  
(V12.1.0.3)
- HMA-314296 レポート内で 2 つのグラフが隣接している場合に、レポートを Microsoft Excel にエクスポート  
(V12.1.0.4) すると、2 番目のグラフが縮小します。これは Unica Insights の既知の問題です。

**回避策:** Excel レポートを開いて編集し、グラフのサイズを変更します。